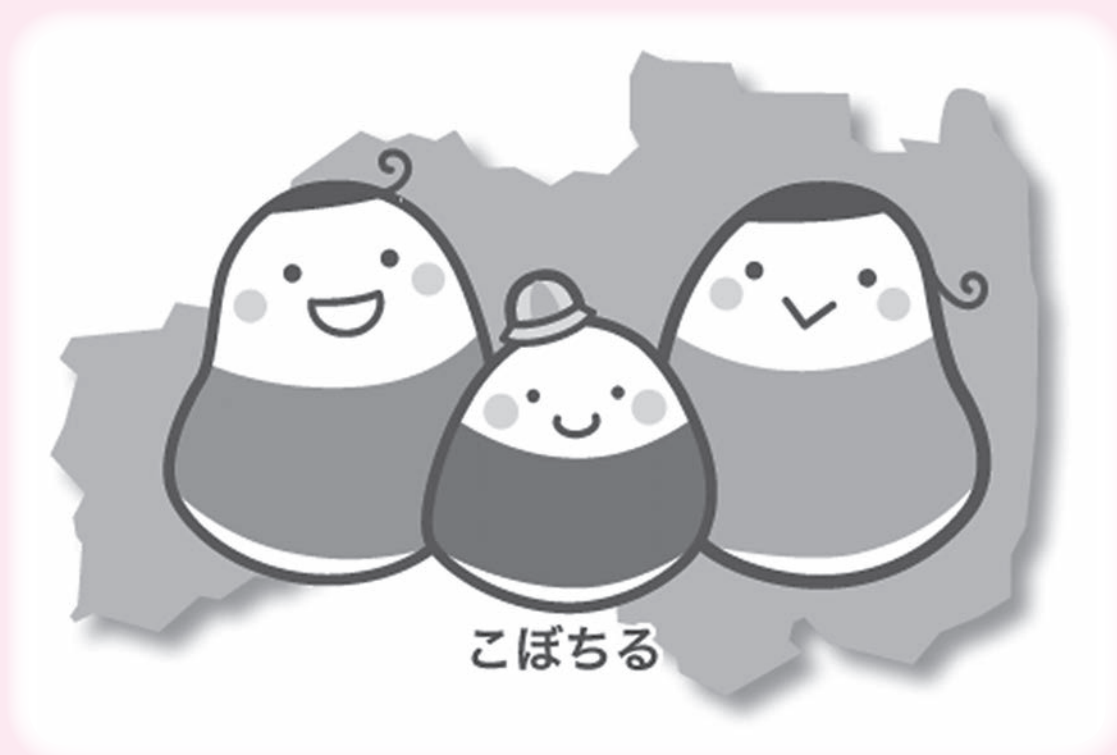


子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

平成29年度 活動報告書



福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

目 次

あいさつ～学童期の新たなステージ～

福島ユニットセンター長 橋本 浩一	1
1 エコチル調査の概要	3
(1)背景	3
(2)環境省等による企画・実施	3
(3)調査の内容	3
2 平成22年度から28年度までの主な活動実績	5
3 平成29年度活動実績	8
(1)リクルート等の実績	8
(2)全体調査実施状況	8
(3)詳細調査	10
(4)地域運営協議会開催	13
(5)市町村訪問	14
(6)医療機関訪問	14
(7)教育関連機関訪問	14
(8)広報活動	15
(9)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況	21
(10)その他研修等	22
(11)学術研究	23
4 実施体制	25
(1)協力体制	25
(2)福島ユニットセンター実施体制	25
◎ 資料	
1 エコチル調査から分かったこと	27
2 学術研究の成果	35
3 ニュースレター「エコチル☆ふくしま通信」	38
4 エコチルふれあい会の実施状況	42
5 エコチル調査協力医療機関(平成30年3月31日現在)	46
6 平成29年度福島ユニットセンター組織図(平成30年3月31日現在)	48

ごあいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター

センター長 橋本浩一

～学童期の新たなステージへ～

エコチル調査の推進につきまして、日頃よりご理解、ご協力を賜りまして心から感謝申し上げます。

平成23年1月から開始され、東日本大震災からの復興とともに歩んできたエコチル調査は8年目に入りました。平成23年度に出生した児はこの4月に小学校に入学しました。特に、東日本大震災、そして原子力発電所事故の混乱の中、様々な思いで出産し、お子さんの成長を見守ってこられたご家族の皆様におかれましてはこの上ない喜びと存じます。

10万人の妊婦さんの参加登録にて開始された本調査の成功の鍵は、可能な限り多くの子どもたちの参加継続、そして高い質問票返却率の維持です。そのため、福島ユニットセンターでは“顔の見える参加者とのコミュニケーション”をモットーとし、子どもたちの発達に合わせた「ふれあい会」を開催してきました。さらに平成29年度は、新たに保護者を対象とした「笑いヨガ」や「子育てワークショップ」などのイベントにも取り組みました。和気あいあいとした雰囲気の中でエコチル調査にご理解をいただいています。

全県下で実施されている福島県における本調査は、調査登録出生児の約97%(約12,500人、平成30年3月31日現在)が継続参加し、半年ごとの質問票回収率はおおむね80%となっているなど順調に進んでいます。また、国家プロジェクトであるエコチル調査は、各ユニットセンターの取組について、外部委員による評価を毎年受けています。平成29年度、当ユニットセンターはS、A、B、Cの4段階のうち「S」と高評価を受けました。S評価は全国19か所のユニット・サブユニットセンターのなかで3か所のみです。参加者、関係者のご協力の賜物です。改めまして感謝申し上げます。日々の活動、結果など

は当ユニットセンターホームページの「みんなの図書室」、あるいは環境省ホームページの「調査の結果」でご覧いただけます。

小惑星探査機“はやぶさ”をご存知でしょうか？1号機は7年間の宇宙での幾多の困難を乗り越えて地球に戻り、宇宙の神秘を紐解く情報を私たちにプレゼントしてくれました。エコチル調査はようやく7年を経過しました。リクルートから16年間の大航海はまだまだ続きます。

今後とも、一日一日と成長する子どもたちを関係者の皆様とともに見守り、そして学童期の新たなステージに歩み始めたエコチル調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

平成30年7月



1 エコチル調査の概要

(1)背景

『エコチル』とは、「エコロジー」と「チルドレン」を組み合わせた言葉で、『エコチル調査』は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」の愛称である。

近年、子どもの間では、ぜん息やアトピーなどの疾病が増加しており、その多くは生活環境の中の物質、運動や食事などの生活習慣、遺伝的な要因などが関係しあって起こるとされている。

小児は、各器官の構造や機能が成熟する時期が異なり、また身体的特徴や行動特性によって環境中の有害物に対する特異的な曝露形態があり、化学物質の体内動態にも成人と違いがあるなど、子ども特有の脆弱性が認められる。

このような環境リスクが子どもに与える影響を明らかにするためには、実際の人の集団で観察する疫学的なアプローチが重要であることから、これまでに例を見ない大規模な調査を実施することとなった。

(2)環境省等による企画・実施

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター(国立環境研究所)が実施主体となって、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)及び全国15ユニットセンターの協働により、平成22年度から実施されている。

- ① 平成22年3月 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」
基本計画を作成・公表
- ② 平成23年1月 「エコチル調査・妊婦さんの参加者募集(リクルート)」を開始
- ③ 平成24年10月 全国15地域を対象に、調査で解析する環境要因に放射線を追加するとともに、福島県における調査対象地域を全県に拡大
- ④ 平成26年3月 リクルート終了
- ⑤ 平成26年11月 詳細調査の中の訪問調査(生活環境調査)を開始
- ⑥ 平成27年4月 詳細調査の中の医学的検査及び精神神経発達検査を開始

(3)調査の内容

1)調査期間

- ① 平成23年1月～平成26年3月 参加者募集(リクルート)
- ② 平成23年1月～平成39年 全体調査
- ③ 平成26年11月～平成39年 詳細調査
- ④ 平成39年～平成44年 解析

2) 調査対象地域

- 全国15地域(北海道、宮城、福島、千葉、神奈川、甲信、愛知、富山、京都、大阪、兵庫、鳥取、高知、福岡、南九州・沖縄)
- 福島の対象地域
 - 平成23年1月～ 県北及び相双地域の10市町村
(福島市、南相馬市^{*}、双葉郡8町村^{*})
 - ※平成23年3月11日以降、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、リクルートを中断
 - 平成23年6月～ 県北地域の4市町を追加(伊達市、伊達郡3町)
 - 平成24年10月～ 全県域(上記を含めた59市町村)

3) 調査対象者

- 調査対象地域に住民票を有し、かつ協力医療機関で出産した母親、子ども及び父親で、エコチル調査に同意をいただいた方
- 全国10万組の母親、子どもを目標参加者数とし、達成した(うち詳細調査は5%の約5,000人)。

4) 調査項目

- ① 母親に実施される項目
 - ・ 妊娠初期及び妊娠後期 : 質問票、採血、採尿
 - ・ 出産後 : 採血、毛髪採取
 - ・ 出産後1か月健診時 : 質問票、母乳採取
- ② 子どもに実施される項目
 - ・ 出生時 : 臍帯血採取
 - ・ 出生後 : ろ紙血採血
 - ・ 出生後1か月健診時 : 毛髪採取
 - ・ その後半年ごとに13歳まで : 質問票
 - ・ 8歳、12歳 : 学童期検査
- ③ 父親に実施される項目
 - ・ 質問票、採血
- ④ 母親参加者総数の5%の参加者を対象に実施される項目(詳細調査、予定を含む)
 - ・ 1.5歳児、3歳児、6歳児以降1～2回 : 詳細調査(環境測定)
 - ・ 2歳児から2歳ごとに12歳まで : 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)

2 平成22年度から28年度までの主な活動実績

(1) リクルート等の実績

- 1) 平成23年1月から平成26年3月までの母親参加者数(最終リクルート数)
- | | |
|---------------------------|---------------------|
| | 13,131人(全国103,097人) |
| ① 平成22年度(平成23年1月～平成23年3月) | 192人 |
| ② 平成23年度(平成23年4月～平成24年3月) | 1,531人 |
| ③ 平成24年度(平成24年4月～平成25年3月) | 4,357人 |
| ④ 平成25年度(平成25年4月～平成26年3月) | 7,051人(リクルート終了) |

2) フォローアップ活動

妊娠初期から生後1か月までは、当ユニットセンター及び協力医療機関において回収状況などの進捗管理を実施し、生後6か月以降は、当ユニットセンターにおいて回収状況の確認、質問票への記入漏れをチェックした。

また、参加者からの産後の相談や育児相談等に対応した。

(2) 調査推進のための活動

本調査の意義等について、調査開始前から市町村及び関係医療機関等に対し説明を行い、協力体制づくりに努めた。調査開始後においても、県民への周知を図るとともに、参加者の協力を得るため、広報活動に力を注いだ。

また、エコチル調査に関する意義を理解していただき、認知度を高め、一人でも多くの妊婦さんに参加していただくよう様々な活動を展開した。

1) 市町村訪問

調査開始時に県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりリクルートを中断した南相馬市及び双葉郡8町村に対しては、調査開始時に対象地域であったことから、毎年訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査推進等について支援を依頼した。

2) 医療機関訪問

調査開始時に産婦人科52協力医療機関を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

平成25年度 52医療機関を訪問し、リクルート数確保の依頼からリクルート期間終了に至るまでの周知に努めたほか、小児科7基幹病院に対して、詳細調査に係る理解と協力を求めた。

平成26年度 42医療機関を訪問し、長期にわたる協力に対し感謝の意を表したほか、10小児医療機関を訪問し、詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)の概要を説明するとともに、実施に向けての課題等を聴取した。

平成27年度 疾患情報登録調査の開始に当たり、対象医療機関を訪問し、調査概要等について説明した。

平成28年度 詳細調査の協力医療機関を訪問し、2歳児を対象とした調査終了を報告するとともに、4歳児検査の準備に向けての意見交換を実施した。

3)教育関連機関訪問

平成23年度に出生した子どもたちが、平成30年度には小学校に入学することとなることから、平成28年8月から9月にかけて福島県教育事務所及び福島県小学校長会の関係者を訪問し、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めた。

また、訪問時に、地域ごとに設置している福島県地域運営協議会委員への平成28年度からの就任について、福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校長会の役員の方々に依頼し、承諾をいただいた。

4)地域運営協議会開催

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
2回	3回	4回	5回	5回	5回	5回

5)RC代行研修実施

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
3回	5回	19回	9回	8回	6回	5回

6)イベント等開催

平成23年度 参加者を対象に「よみきかせ&エコチルコンサート」を開催

(3月10日福島市)

医療機関スタッフ及び参加者を対象に「放射線に関する講演会」を2回開催

(7月4日福島市、10月9日福島市)

平成24年度 県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を2回開催

(10月28日本宮市、11月3日福島市)

平成25年度 県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を4回開催

(6月15日会津若松市、7月13日いわき市、11月10日郡山市、
11月16日福島市)

キャラクター「こぼちる」の発表及び命名者の表彰式

(11月10日郡山市におけるエコチルコンサート会場)

平成27年度 県民及び参加者を対象に「子育て講演会&コンサート」を開催

(11月14日郡山市)

平成28年度 県民及び参加者を対象に「子育て講演会&クリスマスコンサート」を開催

(11月27日福島市)

7)ふれあい会開催

対象者	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
6か月児及びその親	3回	3回	28回	4回	-
1.5歳児及びその親	-	2回	5回	19回	6回
3歳児及びその親	-	-	2回	11回	8回
5歳児及びその親	-	-	-	-	2回
母親	-	-	-	1回	4回

8)広報活動

① マスコミでのPR

テレビ、ラジオ、新聞、地域情報誌にCM記事の提供と広告の掲載

② ニュースレターの発行

参加者向けに「ふくしまエコチル新聞」(平成26年度に「エコチル☆ふくしま通信」にリニューアル)を発行

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
2回	2回	1回	2回	4回	4回

③ 市町村広報紙等への記事掲載

平成23年度	平成24年度	平成25年度
5回	12回	8回

④ 活動報告書の発行

名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
エコチル★活動報告(市町村向け)	9回	5回	-	-
エコチル★だより(医療機関向け)	12回	12回	9回	12回

⑤ 市町村イベントへの参加

市町村が主催するイベントのブースに出展し、エコチル調査について周知

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
4回	2回	4回	3回

3 平成29年度活動実績

(1) リクルート等の実績

1) リクルート開始後の対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯 (表1)

福島ユニットセンターは、平成23年1月31日から福島市、南相馬市及び双葉郡の10市町村を対象地域として、産科医療機関を受診した妊婦とその配偶者を対象にリクルート(参加登録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により、相双地域を中心に福島県民の住環境は一変した。南相馬市の一部地域及び双葉郡は立入禁止区域となり住民は各地に避難し、リクルートを中断した。その後、対象地域は県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村が対象地域となりリクルートを行った。

平成26年3月31日をもって3年間のリクルートは終了した。父親のリクルートと子どもの登録は、母親が出産し1カ月健診終了の同年12月まで実施した。

表1 福島ユニットセンターでの実施概要

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート目標人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月～26年3月(3年2カ月)	平成24年10月～26年3月(1年半)

2) 母親、父親及び子どもの参加者数

平成28年度中に、参加者登録状況についてデータクリーニング及び確認作業を行った結果、母親のリクルート数のはのべ13,131人、父親のリクルート数は8,694人、子どもの出生数は12,867人となった。

子どもの参加者年齢は、平成30年3月31日現在で3歳4か月～6歳8か月であり、3歳までのエコチル調査は終了した。

(2) 全体調査実施状況

1) 質問票調査実施状況

出産後6か月以降の質問票は、参加者の誕生月前後とその6か月後の年2回、半年ごとにコアセンターから参加者宅へ発送され、記入後ユニットセンターへ返送される。ユニットセンターでは回収後質問票の入力・データクリーニング作業を行う。

平成29年度は、2.5歳児から6歳児までの計8種類、総計26,450部の質問票を発送した。3歳児質問票は平成29年11月に全ての発送を終了し、新たに6歳児質問票が同年6月から発送を開始した。(表2)

表2 平成29年度 質問票調査発送数

質問票種類	1.5歳	2歳	2.5歳	3歳	3.5歳	4歳	4.5歳	5歳	5.5歳	6歳
福島本部事務所	0	0	27	902	1,846	2,045	1,880	1,543	1,326	968
郡山事務所	0	0	98	2,118	4,232	6,137	2,634	471	62	51
計	0	0	125	3,020	6,078	8,182	4,514	2,114	1,398	1,019

平成30年3月31日現在の質問票回収率(表3)は、6か月質問票(発送後6か月後)96.9%であったが、年齢が上がるにつれ徐々に低下している。全国15ユニットセンターの平均と比較すると回収率はこれまで数ポイント高い状況で推移してきたが、一時的に低くなる状況も見られるようになった。現在、質問票が発送後5週間以上返送されない場合、返送を促す等回収率の維持に努めているが、引き続き重要な課題である。

表3 質問票調査実施状況(平成30年3月31日現在)

質問票種類	質問票発送数	回収数	回収率(%)	
			福島	全国平均
6か月	12,832	12,440	96.9	94.1
1歳	12,737	11,986	94.1	91.3
1.5歳	12,692	11,555	91.0	89.2
2歳	12,655	11,099	87.7	87.2
2.5歳	12,632	10,740	85.0	85.5
3歳	12,607	10,396	82.6	83.9
3.5歳	12,446	9,450	79.7	81.4
4歳	9,531	6,909	78.7	80.1
4.5歳	6,368	4,935	77.5	78.4
5歳	3,195	2,428	76.5	76.1
5.5歳	1,776	1,349	77.5	77.2
6歳	1,019	774	76.0	76.3

2) データの固定化に向けたデータクリーニング作業

生後6か月から1歳までの質問票調査のデータ固定化作業を実施した。

3) 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、生後、子どもが特定の疾患に罹患した場合、保護者の質問票の記載内容に基づき、専門的な内容について診療した医療機関へ二次調査票の記入を依頼するもの

である。

対象疾患は、川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がんである。

参加者が診断治療を受けた県内外医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

4) フォローアップ状況

調査参加者が、福島ユニットセンターから他ユニットセンター対象地域に転出する場合又は他ユニットセンターから福島県内へ転入した場合は、管轄を変更して調査を継続して実施している。また、対象地域外へ転出された場合は、質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続している。協力取りやめなどの意思が明らかでない状態で住所のあて先が不明になり、電話連絡が取れなくなった調査参加者へは、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し状況を把握し連絡を試みている。

母親の妊娠中の流産、中絶、子宮内胎児死亡、出産後の子どもの死亡等により調査継続が不可能になった場合を「調査打ち切り」、子どもは追跡可能な状況であるが代諾者(主に母親)の都合により調査継続ができなくなった場合を「調査取りやめ」としている。

平成29年度の子どもの調査取りやめ件数は 45件で理由は多忙、質問の回答が負担、子ども・母親の健康状態、家事都合などであった。

5) フォローアップ率維持のための対応

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、また、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「13年間エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニューズレターの発行などを実施している。

((7) 広報活動参照)

(3) 詳細調査

詳細調査は、平成26年10月から参加者募集(リクルート)を行い、平成28年6月に目標数の637名に達しリクルートを終了した。

詳細調査のうち1.5歳児を対象とした訪問調査を平成26年度から実施し、平成28年度に全員の調査を終了するとともに、同年度から3歳児を対象とした訪問調査を実施した。

また、2歳児を対象とした精神神経発達検査及び医学的検査を平成27年度から実施し、平成28年度に終了した。(精神神経発達検査617件、医学的検査614件)

1) 訪問調査の実施

平成28年6月から3歳訪問調査を実施した。

平成28年6月～平成29年3月 372件

平成29年4月～平成29年12月 204件 計576件実施(完了)

2) 精神神経発達検査(新版K式発達検査)及び医学的検査の実施

平成29年4月から4歳精神神経発達検査、同年5月から医学的検査を実施した。

精神神経発達検査 訓練を受けた検査者の面談による検査を実施

医学的検査 身体計測のほか、医師による診察や血液検査を実施

① 協力病院・施設

詳細調査の精神神経発達検査及び医学的検査を実施するため、協力医療機関・施設(表4)に協力を得て実施した。精神神経発達検査の検査会場として場所のみを借用する医療機関においては、ユニットセンターの職員が出向いて検査を実施した。

表4 詳細調査協力医療機関・施設

	協力医療機関・施設	医学的検査	精神神経発達検査
1	公立藤田総合病院	○	検査会場借用
2	大原総合病院	○	
3	福島県立医科大学附属病院	○	○
4	公立相馬総合病院	○	検査会場借用
5	星総合病院	○	○*
6	太田西ノ内病院	○	○
7	白河厚生総合病院-	○	検査会場借用
8	竹田総合病院	○	○
9	福島県立南会津病院	○	検査会場借用
10	いわき市立総合磐城共立病院	○	検査会場借用
11	第二子どもの家		○
12	子どもの家保育園		○

※ 検査者の都合で平成29年10月～平成30年1月にかけ場所のみ借用した。

<各協力医療機関・施設訪問>

平成30年2月から各協力医療機関・施設を訪問し、4歳精神神経発達検査及び医学的検査協力へのお礼を述べるとともに進捗状況を報告した。また、現行の問題や課題について相談するとともに、福島ユニットセンターに対する要望等を聴いた。併せて平成30年度の検査体制についての変更点を確認し、引き続き検査への協力を依頼した。

- ② 4歳精神神経発達検査及び医学的検査実施件数
- | | | |
|----------|-----------------|--------|
| 精神神経発達検査 | 平成29年4月～平成30年3月 | 340件実施 |
| 医学的検査 | 平成29年5月～平成30年3月 | 302件実施 |

3) 詳細調査関連会議等

- ① 検査担当者の情報交換会
- | | |
|----------|------------------------|
| 平成29年4月 | 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市) |
| 平成29年10月 | 医学的検査担当看護師間情報交換会(郡山市) |
| 平成29年12月 | 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市) |
- ② 新版K式発達検査リーダー・検査者会合
- | | |
|----------|-----------------|
| 平成29年6月 | 発達検査リーダー会合(Web) |
| 平成29年8月 | 発達検査リーダー会合(Web) |
| 平成29年11月 | 発達検査リーダー会合(東京) |
- ③ 詳細調査担当リサーチコーディネーター(RC)会議
- | | |
|-----------------|------|
| 平成29年4月～平成30年3月 | 計12回 |
|-----------------|------|
- ④ 精神神経発達検査定例会
- | | |
|-----------------|------|
| 平成29年5月～平成30年3月 | 計10回 |
|-----------------|------|
- 出席者：医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学心理士、
福島県立医科大学小児科医、RC

4) 研修会・講習会・認定試験

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 平成29年6月 | 新版K式発達検査(初級)講習会(京都市)受講者1名 |
| 平成29年9月 | 4歳新版K式発達検査ビデオ試験(郡山市)受講者1名 |
| 平成29年9～10月 | 4歳新版K式発達検査認定試験 実技(東京都)受講者2名 |

5) 4歳精神神経発達検査ボランティア児研修

- | | |
|------------|-----------------------|
| 平成29年8月～9月 | (福島市、いわき市) ボランティア児15名 |
|------------|-----------------------|
- ボランティア児募集にあたり、いわき市は詳細調査協力施設に協力を求め、福島市は福島ユニットセンターの職員や友人知人に協力依頼した。

(4)地域運営協議会開催

1)開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政機関及び医療機関等の委員に対し調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、情報交流の推進を図った。

2)開催状況

平成29年度も、県及び地域の運営協議会を計5回開催した。(表5)

表5 地域運営協議会の開催状況

	協議会名称	開催日	開催地
1	福島県地域運営協議会	平成29年7月24日(月)	福島市
2	県北・相双地域運営協議会	平成29年10月2日(月)	福島市
3	県中・県南地域運営協議会	平成29年10月16日(月)	郡山市
4	会津地域運営協議会	平成29年11月13日(月)	会津若松市
5	いわき地域運営協議会	平成29年11月24日(金)	いわき市

3)内容

環境省・コアセンターから全国のエコチル調査の現状と調査にかかる情報やご意見をいただいた。本県のエコチル調査の活動状況、環境省からの年次評価、質問票集計中間結果等について報告した。参加者に13年間調査を継続してもらうための方策や調査に期待することや要望等について、委員から様々なご意見をいただくとともに、今後のご支援・ご協力を依頼した。



福島県地域運営協議会(平成29年7月24日：福島市)

(5)市町村訪問

平成29年6月に、毎年実施している市町村訪問を行った。

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

(6)医療機関訪問

疾患情報登録調査を依頼する医療機関を訪問し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正により、医療機関に疾患情報提供記録を保管していただくよう説明を行った。

また、平成29年度より開始した詳細調査について、小児科のある二次医療機関の協力を得て、4歳時医学的検査・精神神経発達検査を実施した。

(7)教育関連機関訪問

平成29年5月から6月にかけて、平成28年度から実施している教育関連機関を訪問した。

訪問先は、平成29年度福島県教職員の人事異動により、福島県地域運営協議会委員の委嘱替えとなる福島県教育事務所長及び福島県小学校長会の役員の方々とした。

訪問先においては、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めるとともに、福島県地域運営協議会委員への就任を依頼し、承諾をいただいた。

(8) 広報活動

1) 子育て講演会&ファミリーコンサートの実施

開催日：平成29年8月27日(日)

開催地：郡山市

会場：郡山女子大学建学記念講堂

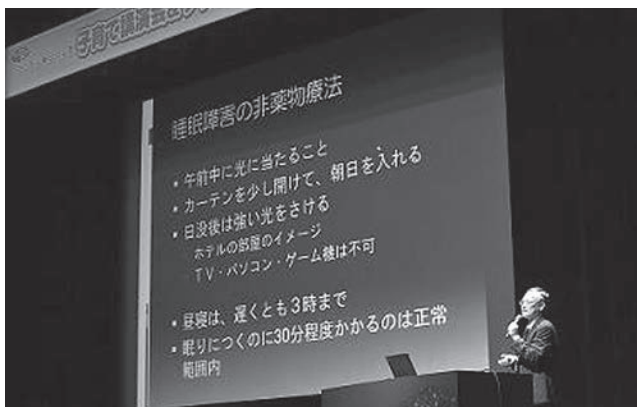
参加者数：403名

福島ユニットセンターに属する参加者へのフォローアップ率維持及び県民に対するエコチル調査の認知度向上及び協力体制の構築を目的としたイベントを開催した。調査参加者をはじめ、全県域の関係機関、公共施設等に対しチラシを配布するなどの広報を実施した。また、フリーペーパーに広告を掲載、地元新聞社にはイベントの開催をお知らせした。

エコチル参加者の関心が高い子育てに関するテーマの講演会と親子で楽しめるファミリーコンサートの2部構成とした。第1部においては、事前申込制による託児室を併設し、福島県立医科大学の横山浩之教授による講演や、当ユニットセンター長による調査の進捗状況や集計結果の報告を行い、第2部では、歌うテーマパークチーミーによる参加型コンサートを行った。

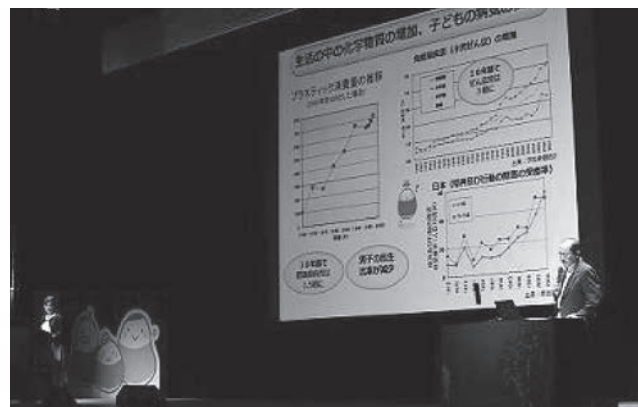
会場内に、調査の最新データなどのパネルを掲示するとともに、子育てや医療に関する相談コーナーを設置した。

The poster is for an event titled "Eco-child ☆ Fukushima" (エコチル☆ふくしま) held on August 27, 2017, from 14:00 to 16:00 (opening at 13:30) at the Ritsumeikan University Building Memorial Lecture Hall in Maebashi. The event is divided into two parts: a lecture by Professor Hiroshi Yokoyama of Fukushima University of Medicine, and a family concert by the singing theme park "Cheermy". The poster includes a QR code for registration, a map of the venue, and contact information for the Eco-child Fukushima Unit Center. It also features a "500 people" badge indicating the number of participants and a list of program details.



福島県立医科大学 横山浩之教授
子育て講演会

演題：「小学校に入るまでにできてほしいこと」



福島ユニットセンター長 橋本浩一

報告：「エコチル調査でわかったこと」



ファミリーコンサート
 「チーミーのウキウキッズライブ」
 調査参加者の対象児(3～6歳児)と親子で楽しめる参加型コンサート
 創造性を育む仕掛けや、歌やダンスのパフォーマンスで会場を盛り上げた



託児室の開設(事前申込制)



エコチル調査の概要や集計データのパネル掲示

子育てや医療に関する相談コーナー



お子様連れの家族がゆったりと講演会に参加できる環境を整備するため、ロビーにモニターを設置した

子育て講演
ファミリーコン
福島県立医科大学エ
コチル調査福島ユニ
ットセンターは八月
二十七日午後二時か
ら、郡山女子大建
学記念講堂で「子育
て講演会ファミリー
コンサート」を開催
する。
日本小児科学会専門
医で福島県立医大
くしま子ども・女性
医療支援センター教
授の横山浩氏を講
師に「小学校に入る
までにできてほしい
こと」をテーマに聴
講する。

日刊マメタイムス 7月19日掲載

来月27日子育て講演&演奏会
福島医大エコチル調査福
島ユニットセンター(エコ
チルふくしま)「子育て
講演会&ファミリーコンサ
ート」は八月二十七日午後
二時から、郡山の郡山女
子大建学記念講堂で開かれ
る。参加申し込みを受け付
けている。
第一部の講演会は、福
島医大くしま子ども・女
性医療支援センターの横山
浩之教授が「小学校に入る
までにできてほしいこと
」をテーマに話す。第二部
のコンサートは、「会いにい
ける歌のお兄さん」として
活躍しているチームさん
が登場する。
入場無料。定員五百人。
参加希望者はエコチルふ
くまのホームページから申
し込む。応募多数の場合は
抽選となる。問い合わせは
同センター郡山事務所、電
話024(983)475
0へ。
エコチル調査福島ユニ
ットセンターの横山公彦副セ
ンター長・郡山事務所長
宗形光章郡山事務所事務
長は、イベントPRのため福
島民報社を訪れた。

福島民報 7月26日掲載

子育て講演会来て
郡山で来月27日
エコチル調査福島ユニ
ットセンターと福島医大は8
月27日午後2時から、郡山
市の郡山女子大建学記念講
堂で子育て講演会&ファミ
リーコンサートを開く。写
真。
本県の約1万3千人を含
む全国約10万人の子どもを
出生後継続的に調査してい
る環境省の大規模プロジェクト「エコチル調査」の一
環。調査参加者だけでなく
誰でも入場できる。
調査対象の子どもの一部
が来年度小学校に進学する
ことから、講演会では福島
医大くしま子ども・女性
医療支援センターの横山浩
之教授が「小学校に入るま
までにできてほしいこと」と
題して講演する。コンサ
ートでは全国各地のコンサ
ートで活躍中の「チーム
」が出演する。
入場無料、託児あり。申
し込み締め切りは8月3
日。問い合わせはエコチル
調査福島ユニットセンター
郡山事務所(電話024・
983・4750)へ。
福島ユニットセンターの
横山公彦副センター長・郡
山事務所長と宗形光章事務
局長・郡山事務所事務長
は24日、PRのため福島民
友新聞社を訪れた。

福島民友 7月27日掲載

エコチル調査知って
郡山周知へ講演、コンサート
エコチルふくしま子育て
講演会&ファミリーコンサ
ートは27日、郡山市の郡山
女子大建学記念講堂で開か
れ、出席者がエコチル調査
の現状を学んだ。
エコチル調査福島ユニ
ットセンターの主催。環境中
の化学物質などが子どもに
成長や発達にどのような影
響を与えるかを調べる環境
省の全国調査「エコチル調
査」の周知を図ることを目
的に開かれた。
2部構成で行われ、1部
では同センターの橋本浩一
センター長が、エコチル調
査の本県の参加状況などを
報告。「エコチル調査は全
世界に注目され、高く評価
されている」とし「環境に
よって起こる病気を予防す
るための政策をつくるな
ど、子どもが健やかに成長
するための環境整備に役立
てられる」などと話した。
2部では「コンサートが開か
れた。」
エコチル調査の現状を
伝える橋本センター長

福島民友 8月29日掲載

2) エコチルふれあい会の実施

ふれあい会は、エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとがコミュニケーションを持ち、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくモチベーションを高めることを目的として、これまで子どもの成長発達段階で重要といわれている時期に合わせて県内全域で平成24年度から実施している。

平成29年度は、保護者を対象としたふれあい会を新たに企画し開催した。

また、ふれあい会の参加者に対し、エコチル調査の質問票で分かったことについて、資料を配付して説明した。(資料1参照)

ふれあい会の対象と内容は表6のとおりである。

表6 ふれあい会の対象と内容

対象	ふれあい会の内容
3歳児	①親子ダンス(3B体操、キッズダンス) ②小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談
4-6歳児	①親子リトミック ②小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談
保護者	①子育てに関する参加型ワークショップ ②笑いヨガ ③子育て相談 ④茶話会(保護者同士のふれあい・スタッフとのふれあい・相談など)

ふれあい会の実施回数は20回、参加親子組数は計247組であった。(表7)

表7 ふれあい会開催状況

対象児	平成24-28年度(5年間)		平成29年度		計	
	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
6か月児	40	806	-	-	40	806
1.5歳児	33	582	-	-	33	582
3歳児	21	240	6	85	27	325
4-6歳児	2	17	5	93	7	110
親子対象	5	81			5	81
保護者対象	-	-	9	69	9	69

3) ニュースレターの発行

2017年夏号(平成29年7月)及び2017年秋号(平成29年9月)、2017年冬号(平成29年12月)、2018年春号(平成30年3月)の4回発行した。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、「おしえて先生」などの子育てに役立つ情報を提供した。(参加者あて約12,000部、市町村等関係機関あて約750部、計12,750部発送)(資料3参照)

4) 協力医療機関及び施設への活動報告

精神神経発達検査及び医学的検査の12協力医療機関・施設に対して「エコチル★詳細調査★だより」を毎月発行した。詳細調査の進捗状況、取り止め数、未実施(欠測)数、精神神経発達検査及び医学的検査月別検査予定数、参加者への結果報告書の送付数などについて報告した。(第22号～第33号まで発行)



エコチル★詳細調査★だより

第 32 号

2018.2

4歳精神神経発達検査及び医学的検査 (2018年1月末現在)

地区別実施件数

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
発達検査	103	85	13	27	3	10	40	2	283
医学的検査	86	75	11	24	3	10	32	2	243

※ 参加者の転居に伴い実施地区の数字が増減することもあります。
 ※ 県外に転居した場合は、福島県内の詳細調査協力病院・施設まで来ていただき検査を実施します。

実施割合

	総数	実施件数	残数	実施割合
発達検査	616*	282	334	45.8%
医学的検査	616*	243	373	39.4%

※ 1月末現在の4歳発達検査・医学的検査の総数は、取り止め等の理由により616名となりました。



地区別未実施(欠測)数

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
発達検査	6	12	1	3	1	-	-	1	24
医学的検査	15	12	1	2	1	-	3	1	35

取り止め数 (2018年1月末現在)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
取り止め数	5	4	3	4	-	1	3	20

他ユニットへの転出数 (2018年1月末現在)

抽出時期	転出数	地区	転出先
第2次抽出	1	県北	宮城 UC
計	1		



参加者への結果報告書の返却数 (2018年1月末現在)

3歳環境測定結果は、タニアルゲンタータが揃った段階で結果報告することになりました。

返却日	3歳環境測定	4歳発達検査	4歳医学的検査
2017年7月～2018年1月	565	135	29*

※ 医学的検査結果は、諸事情により参加者への返却が遅れています。



4歳精神神経発達検査及び医学的検査 月別検査予定数 (実施数含む)



参加者が4歳になる誕生日を、地区別にした表です。
 精神神経発達検査及び医学的検査は、日程調整上、誕生日より遅れて検査する児が多くなっていますので、よろしくお願いたします。

参加者の誕生日	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
H29年11月	6	10	3	1	-	2	7	29
12月	8	14	3	3	-	-	7	35
H30年1月	10	6	2	4	-	-	4	26
2月	11	13	4	2	1	-	4	35
3月	15	10	3	5	-	-	9	42
4月	8	10	2	1	1	1	7	30

お知らせ

★ 協力医療機関等訪問について
 今年度も詳細調査にご協力を頂いている医療機関等の訪問を計画しています。

訪問目的 ①詳細調査の進捗状況報告
 ②発達検査及び医学的検査に関する意見交換
 ③福島ユニットセンターへの要望等

訪問時期 3月中旬～3月下旬に予定しています。
 なお、訪問日については、後日各医療機関などの窓口担当者に相談させていただきますので、よろしくお願いたします。



看護師さんに「ありがとう！」

「ヤダ！」

某病院でのある日のこと
 「チェック嫌だ」と言いながら参加児が入室。泣き出し診察にならず退室。
 採血も嫌がり入室できずにいると、看護師が参加児に歩み寄り、「赤ちゃんに使う注射でやるから大丈夫だよ」と優しく話しかけました。
 すると、参加児の表情が和らぎ、お母さんに抱っこされて入室。参加児の好きなアンパンマンのDVDを見ている間に採血終了。看護師の「もう終わだよ」の声に、参加児は嬉しい表情を見せた。

看護師さん
使う注射だよ



【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査 福島ユニットセンター
 (福島本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1番地
 TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
 (郡山事務所) 〒963-8024
 郡山市朝日3丁目6-4 レジデンス朝日第2ビル2階
 TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

エコチル★詳細調査★だより 第32号(平成30年2月発行)

5) メールマガジンの配信

エコチル調査のデータ集計結果、論文紹介など、調査の取組状況を広報する学内の教職員及び学生向けのメールマガジン『情報発信：エコチル調査』を毎月配信した。

19

6)市町村主催のイベントへの参加

エコチル調査の周知及び調査への理解を促すことを目的として、市町村で主催するイベントのブースに出展し、活動内容や調査でわかったことなどについての広報活動を行った。(表8)

表8 市町村主催イベントへの参加状況

主催市町村名	イベント名	参加日
郡山市	こどもまつり	平成29年5月5日(金)
会津若松市	健康まつり	平成29年9月17日(日)
福島市	健康フェスタ	平成29年9月24日(日)
郡山市	ファミリーフェスタ	平成29年11月5日(日)



こどもまつり



健康まつり



健康フェスタ



ファミリーフェスタ

7)グッズの作成等

調査に継続参加いただくことを主たる目的として全調査参加者にオリジナルカレンダーを、3歳児にはハンドタオルを、また、平成30年度に初めてエコチルキッズが小学校に入学することとなり、新入児童に対し入学祝としてエコチルの名入り鉛筆を贈呈した。

また、ふれあい会等のイベントにおいては、ティッシュやボールペン等を配布し広報に努めた。

(9)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

2)適用範囲・対象者

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみ父親及び銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を回収した母親又は父親について、12,132名(平成30年3月末現在)に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

電子マネーカード



(10)その他研修等

1)RC代行研修

平成29年度は、ユニットセンター職員等9人に対して入職時に5回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンターの職員等に対する研修は、計60回、受講者は計648名となった。

2)他ユニットセンターとの情報交換会

甲信、高知、宮城及び大阪の各ユニットセンターを訪問し、情報交換を行った。(表9)

表9 他ユニットセンターとの情報交換会

訪問先	訪問日	訪問職員	情報交換の内容
甲 信	平成29年6月25日(日)	RC職員3名	・ファミリーイベントへの参加 ・情報交換会
高 知	平成30年2月13日(火) ～平成30年2月14日(水)	教員1名 RC職員1名 (臨床発達心理士) 事務職員1名	・地域運営協議会への参加 ・フォローアップ活動に係わる情報交換
宮 城	平成30年2月22日(木)	RC職員4名 事務職員3名	・管轄変更及び疾患情報登録に係わる情報交換 ・フォローアップ活動に係わる情報交換
大 阪	平成30年3月2日(金) ～平成30年3月3日(土)	教員1名 RC職員3名	・詳細調査実施状況及び学童期検査準備状況等に係る情報交換 ・4歳詳細調査(集団形式)実施の見学

3)職員研修

全職員を対象に次の研修を実施した。

① 平成29年4月、10月

男女共同参画の推進

② 平成29年7月

全体調査及び詳細調査の状況、個人情報管理、リスク管理

教養講座「接遇」(ふくしま自治研修センター 国分敏明先生)

③ 平成30年2月

全体調査及び詳細調査の状況、個人情報管理、リスク管理、サイバーセキュリティ

教養講座「エコチル調査における環境の曝露評価」(国立環境研究所 田村憲治先生)

4) 他主催研修への参加

コアセンター主催のエコチル調査スタッフ研修(平成29年9月)に積極的に参加した。

(11) 学術研究

1) エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ

学術的情報発信を大学一体となって推進するため、平成27年4月6日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ」を設置した。

平成29年度は、「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議」を平成29年10月26日及び平成30年3月8日の2回開催した。

学内の研究者に対し、エコチル調査の概要・追加調査の現状・データの学術利用等について説明を行い、周知を図った。

2) 中心仮説解析計画検討ワークショップ

エコチル調査における中心仮説に関する成果発表に関して検討を進めるために、コアセンター(国立環境研究所)主催で「中心仮説解析計画検討ワークショップ」が平成29年10月13日及び平成30年3月9日の2回開催された。

当ユニットセンターでは、7名の教員が積極的に参加し、中心仮説に関する研究計画について討論した。

3) 学会発表・論文執筆

① 学会発表

- ・平成29年4月14日～16日 第120回日本小児科学会学術集会

小児疫学研究における2才児の静脈採血について(福島県でのエコチル調査から), 橋本浩一 他

(追加調査)

- ・平成29年10月5日～7日 第58回日本児童青年精神医学会総会

福島市における東日本大震災後の子どもの精神状態と発達障害との関連について-エコチル追加調査-, 板垣俊太郎 他

- ・平成29年10月21日～22日 第49回日本小児感染症学会総会・学術集会

ヒトパレコウイルス3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連, 清水裕美 他

・平成30年2月1日～3日 第28回日本疫学会学術総会

ヒトパレコウイルス3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連,
清水裕美 他

②論文執筆(資料2参照)

・「The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture
- A progress report on the enrollment stage」

橋本浩一, Fukushima Journal of Medical Science, vol.63, No.2, 2017

・「福島県における『子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)』追跡期間の
課題と取り組み」 佐藤晶子, 福島県保健衛生雑誌, vol.31, P25-31, 2018

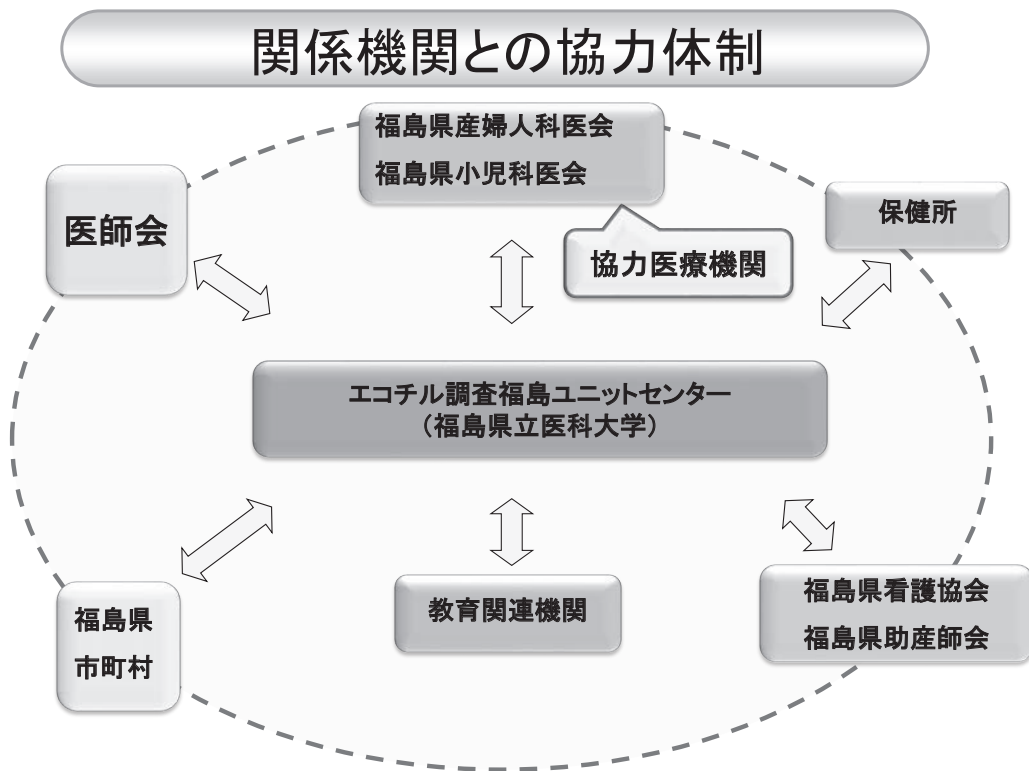
4 実施体制

(1) 協力体制

1) 関係機関

福島県内の行政機関や医療機関など各分野の関係者の協力をいただきながらエコチル調査を進めた。

また、福島県、市町村、保健所、教育関連機関、医師会、看護協会、助産師会、産婦人科医会、小児科医会及び協力医療機関等の関係者に「エコチル調査福島ユニットセンター地域運営委員会」の委員になっていただき、エコチル調査の円滑な推進に向けて貴重な意見をいただいた。



(2) 福島ユニットセンター実施体制

1) 平成23年1月

事業開始時は、県北及び相双地域の10市町村を対象として、福島県立医科大学内において事務3人、RC(リサーチコーディネーター)2人の計5人で業務を担当した。

2)平成24年4月

事業開始直後の東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で双葉郡内はリクルートが中断、参加者の行方等の確認や県北地域の4市町への調査対象地域拡大等により、スタッフを増員し、事務8人、RC6人の計14人で調査に当たった。

3)平成24年10月

調査対象地域の拡大に伴い、平成24年10月に新たに郡山市内に事務所を設置するとともに、その支所を白河市、会津若松市及びいわき市に置いた。郡山事務所の職員数は開所後急増し、従来の福島本部事務所と合わせて、平成25年度は職員約60人、派遣職員約10人で事業を推進した。

4)平成26年12月～

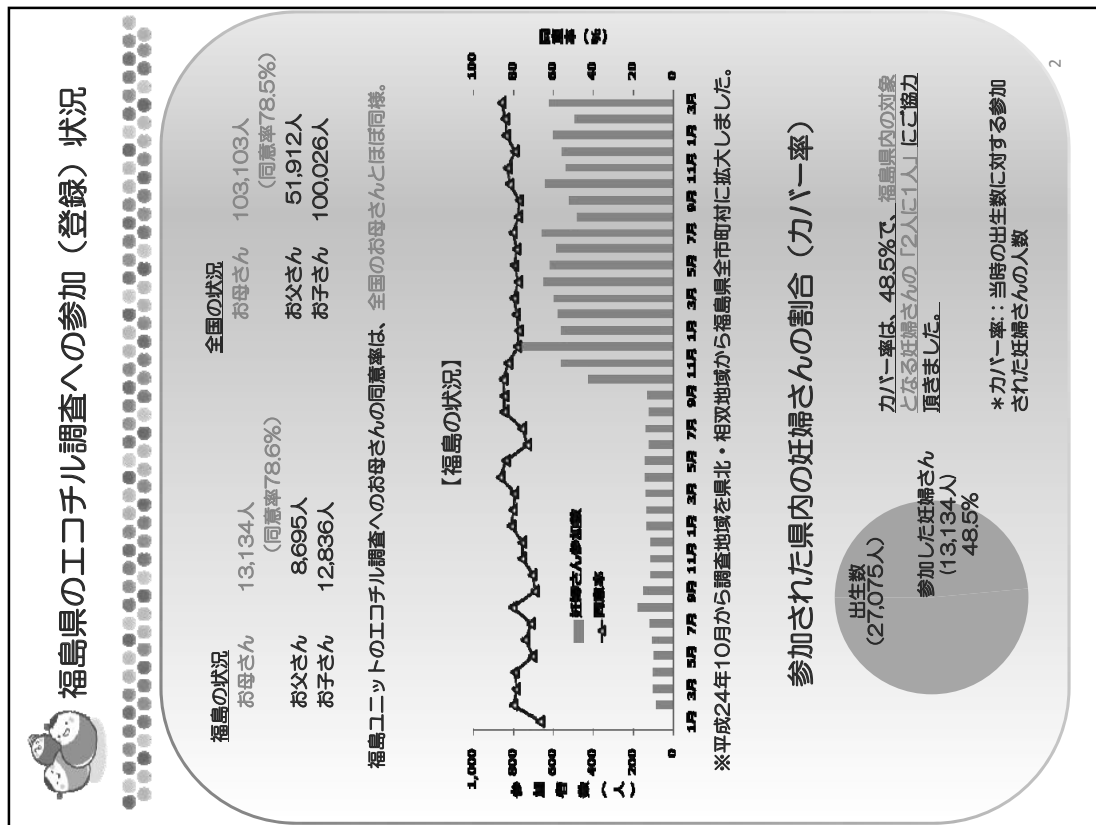
平成26年11月末をもって郡山事務所の3支所を廃止し、また、協力医療機関における常駐業務を終了したことに伴い、郡山事務所の職員数を削減したため、福島本部事務所と合わせて、平成26年度末の職員数は39人となった。

その後の職員数の推移は、平成27年度末41人、平成28年度末40人、平成29年度末42人となっている。(資料6参照)

◎ 資料

1 エコチル調査から分かったこと

エコチルふれあい会では、毎回開催時には、参加者へ福島ユニットセンターへ返送された質問票の集計ほか調査実施状況を説明し、参加者へ調査の進捗や成果に関する情報発信に努めています。
(エコチルふれあい会配布資料『エコチル調査からの報告』)



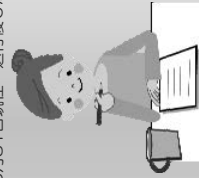
調査票の回答状況

(調査票発送後6ヶ月以上経過したもの)



お子さんの年齢	発送数(人)	回答数(人)	回答率(%)
6か月	12,832	12,440	96.9
1歳	12,737	11,986	94.1
1歳6か月	12,692	11,547	91.0
2歳	12,530	10,981	87.6
2歳6か月	9,599	8,208	85.5
3歳	6,416	5,387	84.0
3歳6か月	3,212	2,626	81.8
4歳	1,779	1,462	82.2
4歳6か月	1,026	827	80.6

平成29年9月31日現在 送付後6か月以上



たくさんのご協力ありがとうございました！
これからもお子さんが13歳になるまで
ご協力をよろしく願います。



福島ユニットセンターのエコチル調査で分かったこと

本資料で紹介する結果は、暫定的な結果です。



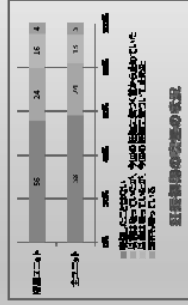
エコチル調査票の回答集計から（中間報告）

お母さんの喫煙について

妊娠するまで喫煙をしていたお母さんも、
妊娠を機に止め、妊娠の初期段階で
喫煙をしていた方は、
福島ユニットでは

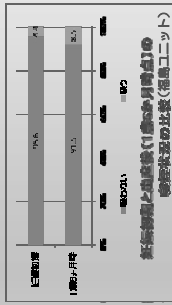
約4%

全国と比較してもほとんど変わりません。



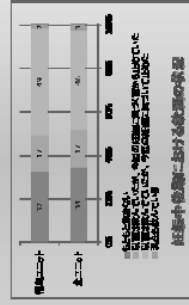
1歳6か月

1歳6か月の時点での、お母さんの喫煙率は、
約9%に増加。



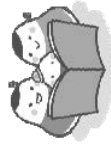
お母さんの飲酒について

「子どもと飲まない」
「今回の妊娠に気づいて止めた」という
お母さんが多く、
妊娠中後期にもお酒を飲んでいるお母さんは
全国の結果と比べるとやや低め。



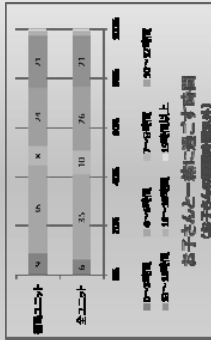
* 2014年11月30日までにご頂いたご回答に基づくものです。
全国の暫定的な結果：エコチルだよりvol.8

子どもと関わる時間について



子どもと過ごす時間

2歳 子どもの1日のうち、お父さんと一緒に過ごす時間で最も多いのは、「4～6時間」で約36%。「0～3時間」というお母さんも9%あり、全国の結果（6%）と比べるとやや高率。



絵本の読み聞かせ

1歳 週に1回以上、お父さんと一緒に絵本を読んでいるお母さんは、1歳の時点で、約78%、2歳の時点で、約86%。お母さんが最も多く、約32%。この傾向は、全国の結果とほぼ同様。



*2014年11月30日までに頂いたご回答に基づくものです。全国の暫定的な結果：エコチルたよりvol.8

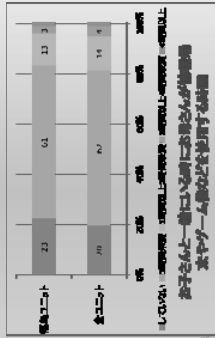
お母さんとお子さんの電子機器の利用



お母さんが情報端末、電子ゲーム機などを使用する時間

2歳

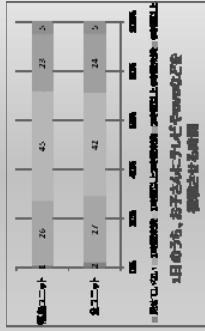
お父さんと一緒に過ごす時間のなかで、お母さんが、パソコン、携帯電話、携帯情報端末、電子ゲーム機などを使用する時間は、1時間未満が最も多く、約61%。お父さんと一緒にのときは、使用していないお母さんもいる一方で、約17%のお母さんは、1時間以上使用。



テレビ、DVDの視聴時間

2歳

1日にお父さんにテレビはDVD等を見せている時間は、1時間以上2時間未満がもっとも多い。4時間以上見せている家も5%あり、全国でも同様の傾向。

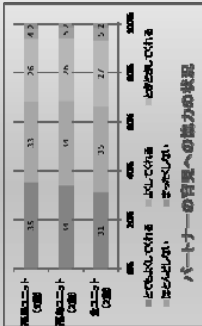


*2014年11月30日までに頂いたご回答に基づくものです。全国の暫定的な結果：エコチルたよりvol.8

パートナーの育児への協力について

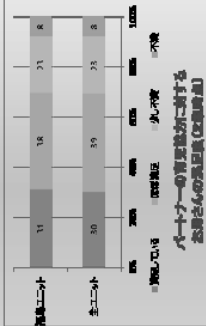
パートナーの育児への協力

- 1歳** 1歳時点においても、2歳時点においても、パートナーの育児協力は、「とてもよくしてくれる」、「よくしてくれる」が約68%全国的にも、ほぼ同様の結果に。



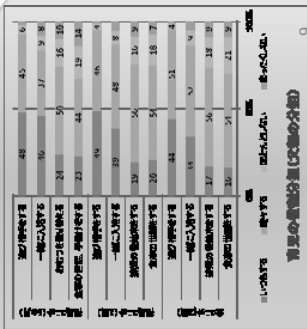
パートナーの育児への協力に対するお母さんの満足度

- 2歳** パートナーの育児協力について、「満足している」、「ほぼ満足」が約69%、「少し不満」、「不満」が約31%全国的にも、同様の結果に。



パートナーの育児分担

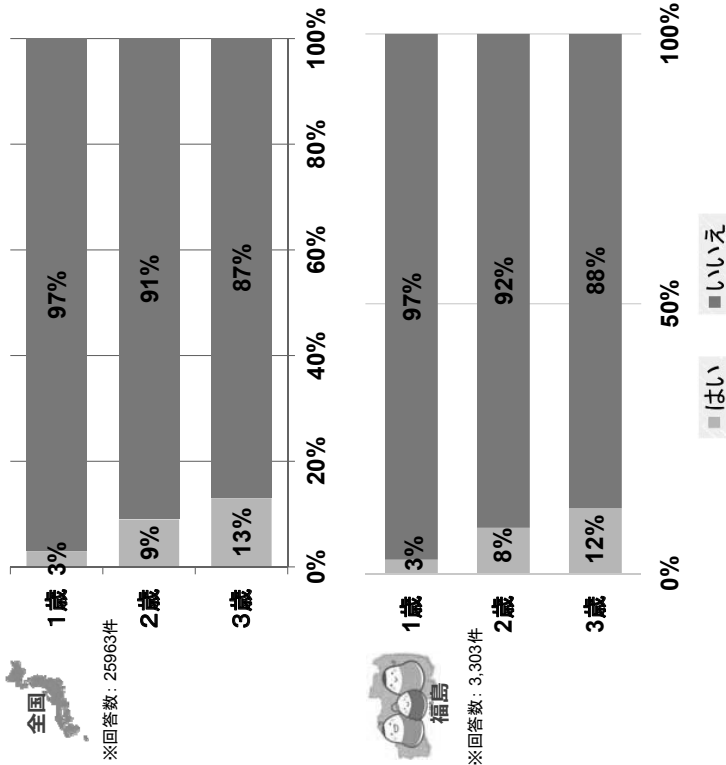
- 2歳** 6カ月時点と比較すると、2歳時点では、「遊び相手」以外の協力について「いつもする」と言う回答がわずかに減少している全国的にも、同様の結果に。



*2014年11月30日までに頂いたご回答に基づくものです。
全国の暫定的な結果：エゴチリたよりvol.8

ぜん息

お子さんは、今までにぜん息になったことがありますか。



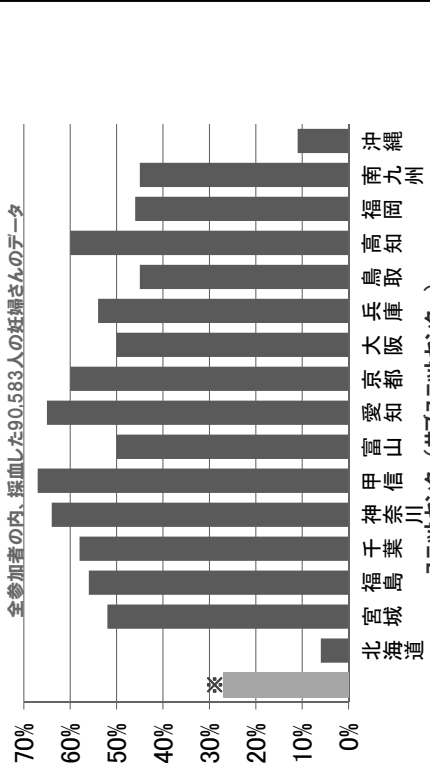
※本集計結果の「ぜん息」は、自記式質問票による回答です。
※喘息になったことがあると回答した以降にないと回答したものは、あるとして集計した。

当然ですが、年齢を重ねるごとにぜん息を経験したお子さんが増えている

2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。

花粉症
(妊婦さん)

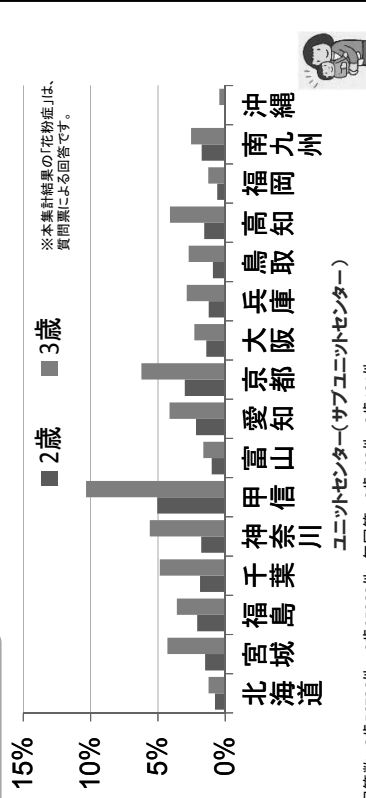
地域別スギ花粉特異的IgE陽性※
※クラス2以上



※北海道ではシラカンバについても測定
※本集料結果の「花粉症」は、質問票による回答です。

花粉症
(子ども)

お子さんは、今までに花粉症になったことがありますか



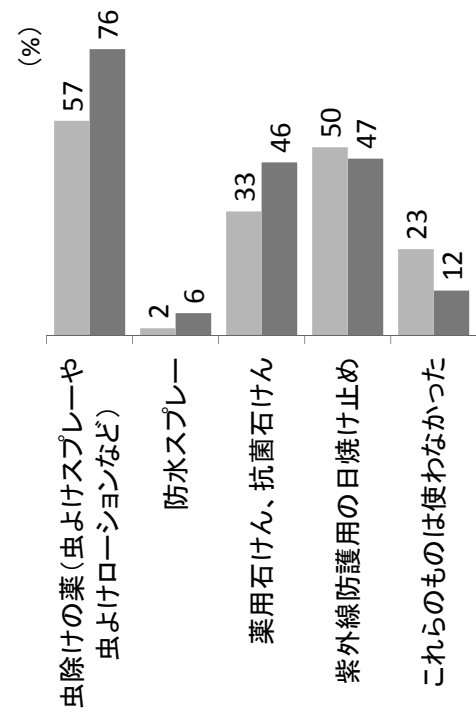
※北海道ではシラカンバについても測定
※本集料結果の「花粉症」は、質問票による回答です。

地域によって、花粉症のお子さんの数に差が見られる

2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。



この1年間に、お子さん自身やお子さんの衣類などに使用したものの(複数回答)



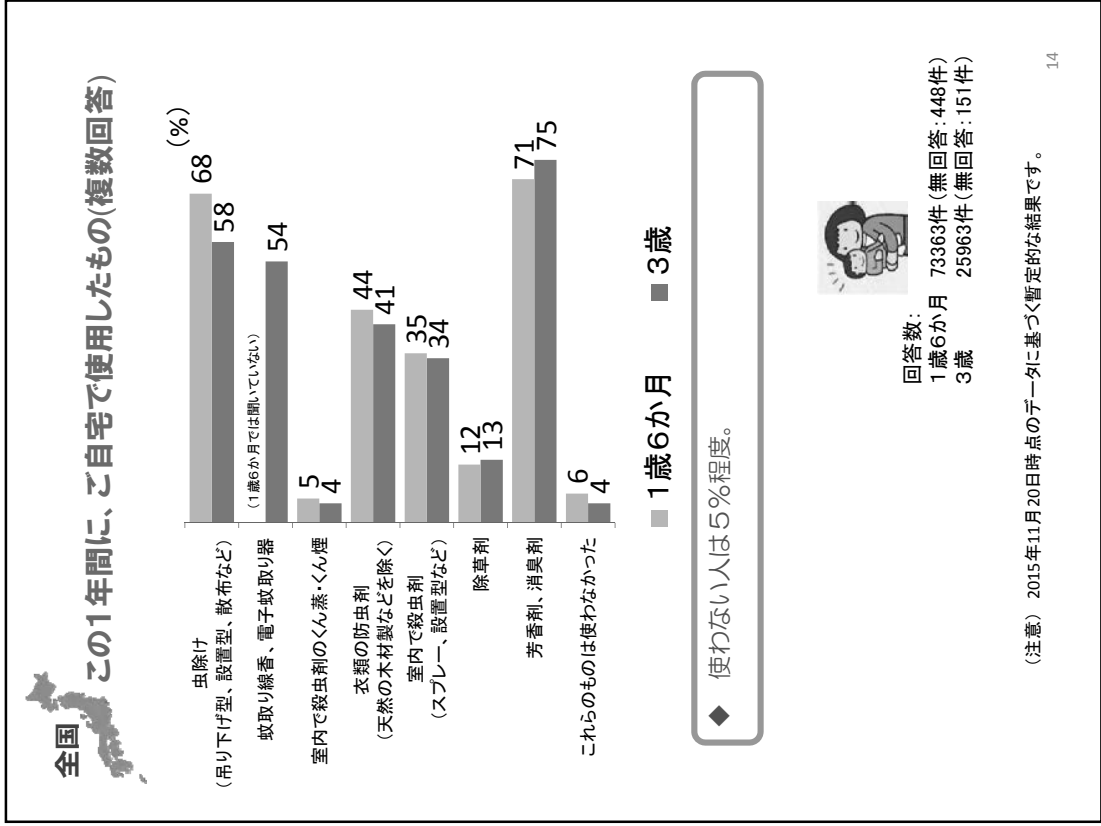
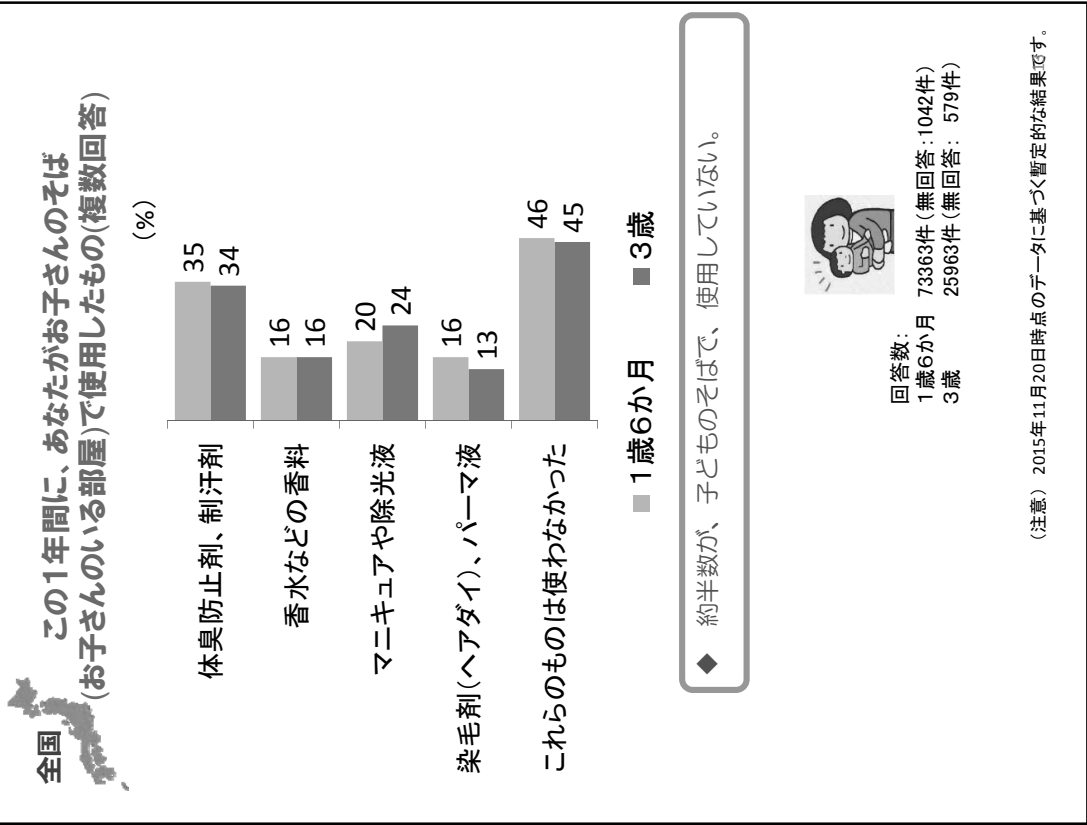
■ 1歳6か月 ■ 3歳

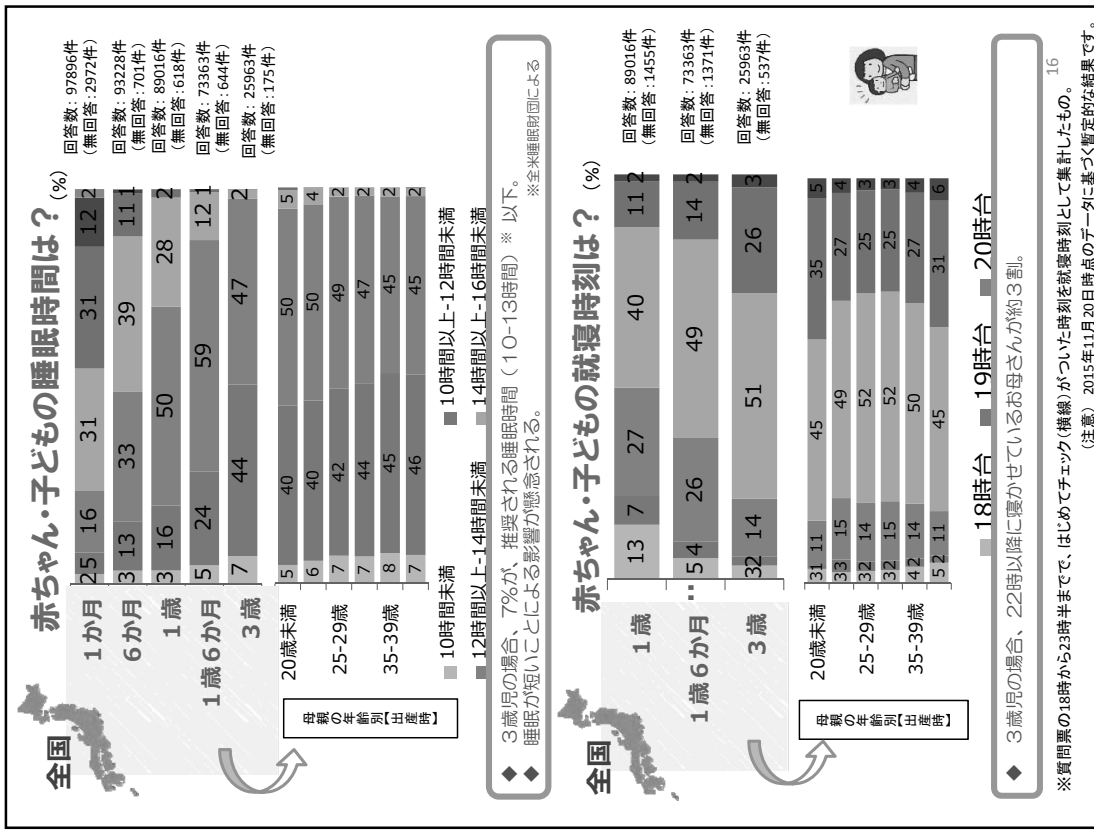
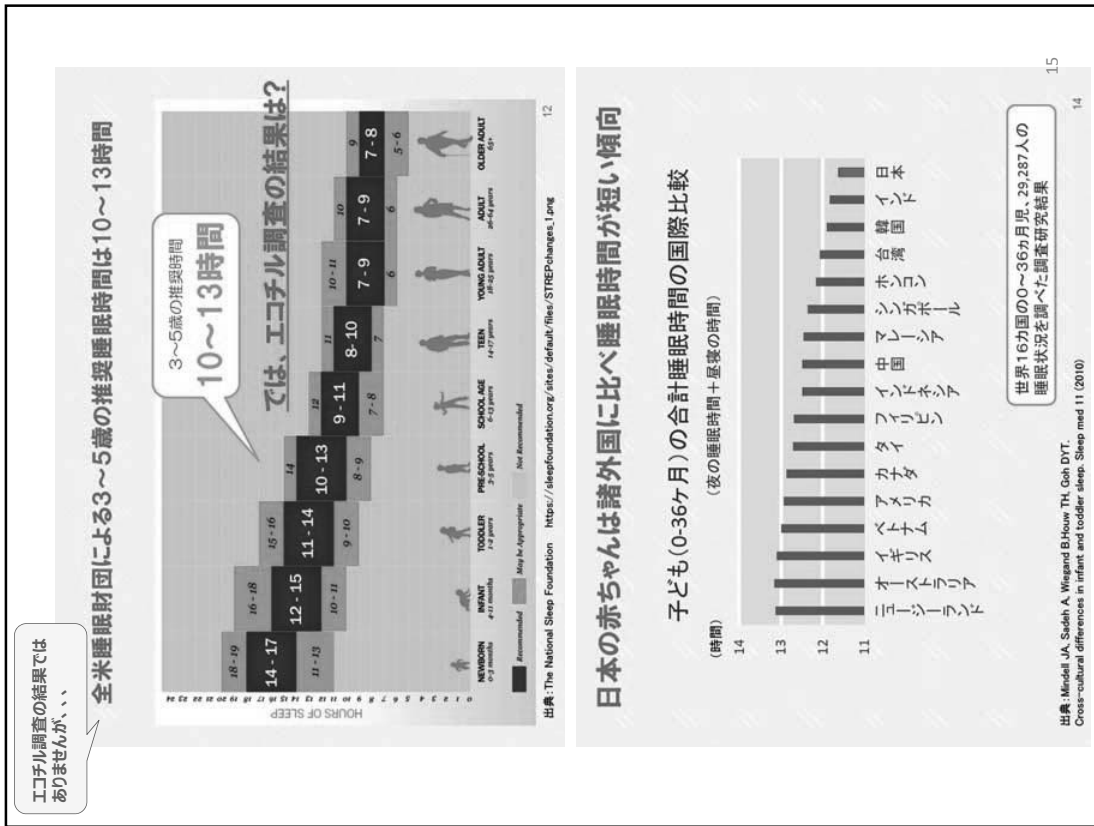
◆ 使用している割合が、1歳6か月に比べて、3歳が多い傾向。



回答数: 73363件(無回答:676件)
1歳6か月 25963件(無回答:239件)
3歳

(注意) 2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。





「エコチルふれあい会」



エコチル調査に登録されたご家族を対象として、顔の見える交流を目的に「エコチルふれあい会」を県内各地で開催しています。3歳児は「キッズダンスまたはリズム遊び」、4-6歳児は「リズムク」および母親対象の会を開催予定です。各回には、小児科医師によるミニレクチャーまたは、参加者同士のお話しタイム、育児相談などもあります。

エコチルふれあい会



H29年度、福島ユニットセンターでは、エコチルふれあい会を県内各地域で21回開催を計画しています。

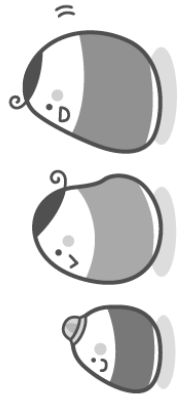
また、8/27には「子育て講演会およびコンサート」を郡山市で開催します。

これからも皆さまのご参加をお待ちしています！



今年もエコチル調査参加者の皆様に楽しんでいただけたら嬉しいです。エコチルふくしま通信やホームページ[<http://www.ecochil-fukushima.jp>]で、お知らせおよび報告をしています。

たくさんのご参加
お待ちしております。



2 学術研究の成果

以下は、平成29年度に学術誌に掲載された論文2題の論文要旨である。

1. The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture

- A progress report on the enrollment stage

Koichi Hashimoto^{1,2)}, Seiji Yasumura^{1,3)}, Keiya Fujimori^{1,4)}, Hyo Kyo-zuka^{1,4)}, Yu Wakaki^{1,4)}, Akiko Sato¹⁾, Haruko Hanzawa¹⁾, Tadahiko Yokoyama¹⁾, Testushi Sato¹⁾ and Mitsuaki Hosoya^{1,2)}

¹⁾ *Fukushima Regional Center for the Japan Environment and Children's Study,* ²⁾ *Department of Pediatrics, School of Medicine, Fukushima Medical University,* ³⁾ *Department of Public Health, School of Medicine, Fukushima Medical University,* ⁴⁾ *Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Fukushima Medical University,*

【Abstract】The Japan Environment and Children's Study is an ongoing nationwide birth cohort study that is being conducted at 15 regional centers throughout Japan. The recruitment of subjects in the study area within Fukushima Prefecture, which includes Fukushima City, Minami Soma City and Futaba County, was begun on January 31, 2011 with the cooperation of the obstetrics and gynecology departments of local medical institutions. On March 11, soon after the start of recruitment, the Tohoku region was hit by an unprecedented disaster in the shape of the Great East Japan Earthquake, which was closely followed by the Tokyo Electric Power Company's Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. As a result of the disaster, the study area in Fukushima Prefecture was expanded on October 1, 2012 to include 59 municipalities across Fukushima Prefecture. Three points are seen as particularly important : 1) Radiation risk communication, 2) The motto is "Be attentive. Be supportive.", and 3) Establishing cooperating partnerships. With the Cooperation of all concerned, the recruitment period ended on March 31, 2014. The tentative total number of the participants enrolled at the Fukushima Regional Center was 34,666 (13,134 pregnant mothers, 8,695 fathers and 12,837 children born before November 30, 2013 as of June 2016).

【掲載誌】Fukushima Journal of Medical Science. 63(2), 57-63, 2017

【日本語概要】

タイトル

福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」一リクルート期間の進捗報告

著者

橋本浩一、安村誠司、藤森敬也、経塚 標、若井 優、佐藤晶子、半澤ハル子、横山公彦、佐藤哲志、細矢光亮

要旨

「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」は、国内15か所のユニットセンターで構成され、全国で実施されている出生コホート調査である。2011年1月31日より、福島県内の調査は福島市、南相馬市、双葉郡の町村を調査対象地域とし、地域の産婦人科医療機関の協力のもと参加者の登録が開始された。調査開始直後の2011年3月11日に、東北地方は、東日本大震災とそれに続く東京電力第一原子力発電所事故という未曾有の災害に見舞われた。その結果、福島県の調査対象地域は、2012年10月1日より県内全域の59市町村に拡大された。県内で調査を実施するうえで、特に1)放射線リスクコミュニケーション、2)“見守り、支える”というモットー、3)協力体制構築の3つの点が重要であると考えられた。全ての関係者の協力により、2014年3月31日にリクルート期間は終了した。福島ユニットセンターで登録された暫定参加者数は、計34,666名(妊婦13,134人、父親8,695人、2014年11月30日までに出生した子ども12,837人)である。

2. 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」追跡期間の課題と

取り組み

佐藤晶子、半澤ハル子、橋本浩一

【掲載誌】福島県保健衛生雑誌. 第31巻, 25-31, 2018

要旨

「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」は、2011年1月より全国で10万人の母子を対象とし、福島を含む全国15か所で実施されている。2014年3月末で参加登録期間は終了し、現在は追跡期間である。出生コホート調査において、追跡期間の参加者数や質問票調査回収率の低下は調査の結果に影響を与える。このため、これらの現象を最小限にとどめるための対策を試みた。

リクルート開始からほぼ7年を経過した2017年12月時点での福島県におけるエコチル調査の子どもの現参加者数は、出生数に対し97.4%、現在発送している質問票回収率はおよそ80%である。県内参加者および関係機関の協力のもと、参加者とのコミュニケーションの取り組みにより、現参加者数および質問票回収率は概ね維持できていると考えられた。

3 ニュースレター：2017年夏号(平成29年7月発行)

エコチルふくしまをキッズ 撮ってあげフォト

2017年6月28日にて実施したに引き続きお楽しみフォトです。

こちらには参加者様からのご投稿写真を掲載しております。

個人情報保護の観点から、このコーナーのホームページへのアップロードは控えさせていただきます。

子どもいっしょ、ママ・パパいっしょ どうしたらいいの？

「下の子が生まれてから、上の子が言うことを聞かず、怒ってばかりです。」

姉妹や友だちに意地悪をする。叱る目をつむったり目をぼちぼちして話を聞かない。反抗的な態度。

これは「弟(妹)が生まれ、もっと自分と関わって」という自己主張(メッサー)で、今までとの関わりがよくなったが自己主張も安心してきているので、イライラして怒ってしまうのは誰でも経験すること。親子が笑顔で過ごす時間を増やすために…

1日限りの上のお子様を抱っこしてあげましょう。

抱っこは不安な気持ちや安心感。抱っこをして「大好きだよ」と伝えたり、話を聞いてあげると、上の子は「ママは僕(私)が大好きなんだ」と安心します。

ママ・パパの抱っこは、子どもたちの心と体の健やかな成長に欠かせない大切なスキンシップです。

～みなさまへ～

ご登録されている内容が変更になりました。

住所や電話番号等が変更になりましたら、大変お手数を掛けしますが、登録内容変更ページにご記入ください。お手元用紙がない場合は、電話でご連絡いただけます。

登録内容変更の際は、年に2回送付される質問票に同封されています。ご住所も変更、ご活用ください。

★撮ってあげフォトコーナーに掲載する写真を募集しています。お子さんの名前(年齢)、性別、年齢の目安、ご住所、電話番号、メッサー(25文字以内)を添えて下記メールアドレスへお送りください。

ecochile@fmu.ac.jp

※写真の掲載に際しては掲載の可否はご本人の同意を仰ぐ必要があります。掲載の可否は掲載後にご連絡ください。ご承諾いただいた場合は、掲載させていただきます。

★みなさまの「声」をお聞かせください。エコチル調査に関する質問・疑問、本誌へのご感想やご要望などをお聞かせください。

お問い合わせに関する情報は、HPに掲載しているプライバシーポリシーに基づいて取り扱います。

http://www.ecochile-fukushima.jp/inquiry.php

■調査の一般的な内容に関するお問い合わせ先

▶エコチル調査福島専用コールセンター
TEL:0120-327-735
受付時間:平日9時～17時
http://www.ecochile-fukushima.jp
Eコチル ぷくしま 検索

■福島ユニットセンターへのお問い合わせ先

・福島本部事務局 (県庁・郡庁地区)
TEL:024-547-1449
〒961-8522 福島県福島市1-10-10 福島大学 福島4号館401号室

・郡山事務局 (郡中・郡南・会津・いわき地区)
TEL:024-983-4780
〒963-8622 福島県郡山市1-10-10 福島大学 郡山4号館401号室

■環境省 国立環境研究所 福島国立大科

エコチル ぷくしま 通信

2017年 夏号

発行/エコチル調査福島ユニットセンター

13年間の折り返しに 近づきつつあります

エコチル調査福島ユニットセンター長 福島県立医科大学 小児科学講座 准教授 堀本浩一

エコチル調査によって7回目の夏が過ぎてきました。子どもたちは成長し、年長児は13年間の折り返しに近づきつつあります。福島県内では対象となる妊婦さんの「お二人一人」が参加し、出生した1万3千人に近い子どもたちは、保育園、幼稚園、小学校においてクラスの半分がエコチルキッズという、「エコチル同世代」の中で育ちます。

全国16ユニットセンターのうち福島県でのみ全県下でエコチル調査を実施しており、参加者数が最も多く、半年ごとの質問票の返却率は4歳6か月時点で80%を超え、福島の参加者の皆さまには熱心にご協力いただいています。また、全体の5%の児を対象とした平成26年10月から実施されている詳細調査は、1.5歳時、3歳時の訪問調査による環境曝露評価、2歳時の医学的検査、精神神経発達検査は無事に終了し、今年の4月からは4歳児の医学的検査、精神神経発達検査を実施しています。

さらに、昨年5月のG7福島環境大臣会においては、子どもの環境健康に関する長期的で大規模な疫学調査の一つとしてエコチル調査が高く評価され、推進すべきとされました。福島のご家族のお一人おひとり、そして関係者の皆さまのご理解とご協力が世界的な国際プロジェクトであるエコチル調査を支えています。改めて参加ご家族の皆さま、関係機関の皆さまに感謝申し上げます。

毎年、秋に開催してきました子育て講演会コンサートは、今年は8月27日(日)に郡山女子大学記念講堂にて開催します。昨年の好評を受け、本年も当大学ふくしま子ども女性医療支援センター 教授 横山浩之先生による講演会を予定しています。昨年と同じく小学校に入るまでにできてほしいことという題名でご講演いただく予定です。また、当日はお子さまの楽しめる企画も用意しておりますので是非お越しください。

年長児が折り返しに近づき、一層つきたいところですが、子どもたちは日々成長しています。後れを取るわけにはいきません。子どもたちと一緒に夏を乗り切りたいですね。

福島ユニットセンターから 皆さまに連絡をすることがあります。

過去にご記入いただいた質問票の確認作業を行っています。その中で測定値の記入漏れや確認が必要な数値が見つかった場合に、問い合わせをすることがありますので、ご協力をお願いします。

それとこんな場合もあります。

(例)

- 前回の身長が計測値より今回の値が小さくなっている。
- 体重の記載が55.0kgもしくは65.0kgか?

記入したのになぜ連絡があるの？

お問い合わせ

過去の計測値については、母子健康手帳をご確認いただくことになります。ユニットセンターから連絡がございましたら、お時間がある際にご確認いただき、ご連絡をお願いします。

それってどんなとき？

エコチル調査福島ユニットセンター 副事務局長 リサーチコーディネーター 長澤 文子です

はじめまして、4月から福島ユニットセンターに任じました。エコチル調査にご協力いただいた皆さまありがとうございます。子どもたちの健やかな成長の一助となるよう努めますのでよろしくお願い致します。イベントなどで、皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

エコチル調査 わかったこと

4歳6か月質問票の「食事調査の結果報告」が 徐々に皆さまのお手元に届いています。

お手元に届いた結果報告はいかがでしたか？ 自分子どもの食事に関する結果は分かっているものの、他の家庭では…と思うことはありますか？ 遠く経道ではありますが、一部の集計結果を覗いてみましょう。

～最近1か月間の食べ方をふりかかっている質問です～

外食をしましたか (西館を過ぎて家で食べるファミリーフード店、食卓などで食事をする。家庭や外食店に併設された惣菜店)

毎日1回	0%
毎日2回以上	3.7%
週4～6回	19.2%
週1～3回	77.1%
毎日	0%
月2回～3回	0%
月1回	0%
食べなかった	0%

野菜はどのくらい食べていましたか

ほとんど食べない	4.8%
食べるほう	26.6%
よく食べる	68.6%

虫歯はいま何本ありますか

10本以上	1.1%
5～9本	1.1%
3～4本	6.8%
1～2本	65%
いない	23%
わからない	0%

※2017年6月15日時点の福島ユニットセンターの4歳6か月質問票に基づく暫定的な結果です。

いかがでしたでしょうか。食生活を考えるきっかけにいただければと思います。

おしえて先生！ あんなこと、こんなこと

母乳「育児」のすすめ

国立病院機構福島病院 統括診療部長 石井 勉 先生

Q 最近母乳の出が良くなってきています。母乳栄養が大事だと思うほど気持ちが高まっています。

A 母乳育児と母乳栄養の違いをご存知ですか？ 母乳栄養は栄養としてのみ母乳育児のこと、母乳育児は母乳とお互いのやりとりの中で赤ちゃんのみならずお母さんの心と体が育まれること、母乳がなくてはならない。赤ちゃんを愛おしく抱いて、目標を合わせて話し合えながら育児をしていく。この期間に築かれる相互愛護的母乳育児の本質です。なので、母乳の分泌が多い少ないにかかわらず、すべてのお母さんが母乳育児をすることが出来るのです。母乳育児を存分に楽しみなが赤ちゃんの成長を見守っていただきたいです。

換尿について

福島県立医科大学 小児科学講座 講師 陶山 和秀 先生

Q どうして、尿検査をするのですか？

A 慢性腎炎の半数以上が学校検尿で発見されており、早期発見・治療を行うことで腎不全への移行を減少させることができますと考えられています。

現在では放尿から、3歳時や5歳時に保育園や幼稚園で検尿が行われています。おかつ行われていないお子さんの検尿は難しいこともありますが、その場合は保育園の先生等に相談して尿検査をさせていただきます。またもしも尿検査の結果に異常な場合は、必ず専門の医療機関を受診するようにしてください。

お知らせ

すべてのふれあい会のお申し込みが、ホームページからできるようになりました。受付期間中は、いつでもお申し込みができますので、ぜひ、お気軽にお申し込みください。

エコチル ふれあい会

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 矢吹町 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山市 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

8歳親子リズムおそび!

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 津波津市 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 津波津市

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 津波津市 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 津波津市 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 津波津市 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 津波津市 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 津波津市 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 福島市 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 福島市 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 福島市 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 南相馬市 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 南相馬市 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山

お友達とみんなで遊べるゲームなどができ楽しいです。お友達と仲良く遊べる機会があります。お友達と仲良く遊べる機会があります。

in 郡山 2017年7月21日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山 2017年8月11日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山 2017年8月26日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山 2017年9月10日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

in 郡山 2017年9月24日(土)AM 9:30～11:30 参加費 230円

ニューズレター：2017年秋号(平成29年9月発行)

エコチルバデーキッズ

撮っておきフォト

2017年9月25日までに撮影したお子様の写真を掲載させていただきます。

こちらには参加者様からのご投稿写真を掲載しております。

個人情報保護の観点から、このコーナーのホームページへのアップロードは控えさせていただきます。

「身体を使って遊みましょう」

福島県立医科大学
ふくしま子ども女性医療支援センター
教授 横山浩之

「子どもが何となく遊ぶのを聞かない、話を聞かない」というのは、長く相談受けます。そのようにときに、最初にチェックするのは、「早寝・早起き・朝ごはん」です。

「早寝・早起き・朝ごはん」のうち、「早寝・早起き」はセレクトです。睡眠時間の確保が大切です。遅寝だと、翌朝に食がたいのは、当たり前です。朝ごはんを食べない子どもは、体調不良です。保育園でも、生活リズムが整っていない子どもは、午前中ずっと不機嫌です。当然、子どもは遊ぶことをきません。

そして、メディアの影響を受けている子どもは、親の言うことよりメディアの方を信じます。幼児期は「三ツ子のたましい百まで」と言われるように、生活習慣に大きな影響を与えます。

近年、メディアの問題によって、対人関係や言葉の発達が遅れて、病院にやってくる子どもが目立つようになりました。このような子どもたちは、メディアが最大の楽しみになっています。そして、身体を使った遊びを知りません。モンテッソーリが楽しみたいという子どもは、ほとんどの親が知らないのです。当然ながら、保護者を含めて、周りの言うこととは聞かれません。

このようなときに、保護者の方々に「早寝・早起き・朝ごはん」と身体を使った遊びをお薦めしています。興味がある方はお問い合わせください。毎月、書くほど変わったとよく言われます。「早寝・早起き・朝ごはん」とメディアの問題は子育ての基本だと捉えて、守って欲しいと思います。

～みなさまへ～

福島県の年齢別エコチルキッズ紹介

2017年7月31日現在の調査対象児童

性別	男児	女児	合計
人数	1,195人	6,307人	3,623人
年齢	1歳児	2歳児	3歳児
人数	1,412人	21人	

みなさまの周りにたくさんのお子様がいます。周りの子どもや子育てについて情報交換してください。エコチルふくしまのホームページには、福島県エコチルキッズにもたくさん掲載を予定しています。このホームページに遊びに来てください。

横山浩之先生から皆様へ

ご講演いただいた内容をもとに先生の写真をもとにプレゼント!!

※応募資格 講演にご参加いただいた方(住所、氏名(フリガナ)、電話番号、職業)を明記し、ご応募ください。エコチル調査事務局(福島県立医科大学)宛に送付してください。

※応募期間 平成29年9月13日 当日郵送あり

※当選発表 福島の皆様へ、当選者の発表と賞品の発送をメールでお知らせいたします。

※お申し込み先 横山浩之先生の本ブログへ

※お申し込み先 横山浩之先生の本ブログへ

※お申し込み先 横山浩之先生の本ブログへ

エコチル 2017年秋号

ふくしま通信

発行/エコチル調査福島ユニットセンター

エコチル調査 7年目を迎える

結果をお届けする時期に

エコチル調査福島ユニットセンター 副センター長 福島県立医科大学 教授 安村 誠司

エコチル調査は、早や7年目に入りました。全国で10万人の参加者を目指して調査への参加を募った結果、103,106人(※全国15地域)のお母さんに同意を頂くことができました(エコチル調査事務局ホームページ 2017年8月31日)。登録数の目標に達することができました。このうち、福島のお母さんの登録数は、延べ人数で13,131人(2017年3月24日時点)となっており、全体の12.7%になります。これは、皆様ご存知のように、東日本大震災後に福島では、全県の妊産婦の方の不安に対するべく、対象地域を、東北・相模地域から全県に拡大したことに由来します。結果的に、出生し、エコチル調査に参加した子どもさんは、同学年の約半数になりました。

さて、エコチル調査は、環境要因(特に環境化学物質)が子どもたちの成長・発達にどのような影響を与えるのかを明らかにするために開始しました。エコチル調査コアセンターは、「10万組のデータが確定、新たな研究がスタート!」(「エコチル調査だより Vol. 11, 2017年2月」と述べています。私たち福島ユニットセンターにおいても、福島のお母さんのデータを解析し、その結果を論文として発表し始めました(※)。

これから、私たちはこの貴重なデータを適切に分析し、「福島で安心して産み、育てられる環境を作っていく」という当初の目標に役立てていきたいと考えています。皆様には引き続き、本調査にご協力頂ければ幸いです。皆様と皆様のご家族のご健康を祈念しております。

※Koichi Hashimoto, et al. The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture: A progress report on the enrollment stage. Fukushima J. Med. Sci. Vol. 63(2), p46-56, 2017. (https://www.jsstage.fukushima.ac.jp/article/fms/63/2/63_2016-177.pdf)

平成29年9月27日(日) 子育て講演会&ファミリーコンサート開催しました

エコチル調査福島ユニットセンター主催による「子育て講演会」(ファミリーコンサート)を郡山女子大学記念講堂で開催しました。

当日は、晴れた空にさわやかな秋の気配が感じられ、400名を超える皆さまにご来場いただきました。

第一部では、当ユニットの橋本センター長がエコチル調査の最新情報の報告を行い、続いて、福島県立医科大学ふくしま子ども女性医療センター教授の横山浩之先生に、「小学校に入るまで子育てに大切なこと」を講演いただきました。一次反響を聞いたお子さんに対する対応法など、保護者の皆さまも熱心に聞いていらっしゃいました。日常のスキミング、お子さんとの関わり方のポイントなどについて、わかりやすくお話しいただきました。

第二部のファミリーコンサートは、「歌うテーマパーク」テーマによる少人数ライブパフォーマンスも元気に歌って、お子さんともママ/パパと一緒に楽しんでいただけたようです。

参加者の皆さまとたいへんお話しできる日をスタッフ一同楽しみにしております。

(※子育てに役立つ情報として、横山浩之先生がいらした。エコチル調査の要旨を掲載しています。ご、ご覧ください! [4頁])

エコチル調査 わかったこと

第2弾 4歳6か月質問票の「食事調査」から夏号に引き続き途中経過ではありますが、一部の集計結果を覗いてみましょう。

～最近1か月間の食べ方をふりかえっての質問です～

「お腹がすいた、早くごはんにして」といいますか?

「主食(ごはん・パン・麺・コンプレーク等)のある朝ごはん」を食べる頻度はどうですか?

「家庭での味付けは外食に比べてどうですか」

ご家庭の様子と比べていかがでしたか。小さい頃からの食生活は大切ですよ。ぜひ、周りの方々と食生活について話してみてください。

おしえて先生! あんなこと、こんなこと

離乳食と食物アレルギーについて

わたり病院 副院長 小児科部長 北條 徹 先生

Q 離乳食を遅らせた方が食物アレルギーを減らせるのですか?

A 最近では食物アレルギーの研究が進んで、離乳食を遅らせること、逆に食物アレルギーが多くなりやすいと言われ始めてきました。生後6月になったり早目に、粉の多い口内口離乳食を避けましょう。1歳しつづいてもいいから、たくさんのお食事に目をつけていくことが大事です。

また、腸や体の発育をそのままにしておく、食物アレルギーが多くなる事も分かってきました。乾燥剤には保湿剤を使いましょう。赤い湿疹ならはのりや保湿剤で治療し、皮膚をきれいにすることで食物アレルギーを予防しましょう。

心臓検診について

福島県立医科大学 児童期小児地域医療支援課 医科大学教授 橋井 伸 先生

Q 心臓検診とは、何でしょうか?

A 小学校に入ると心臓検診が行われます。検診の目的は心臓疾患を早期に診断し、適切な日常生活を行えるようにすることです。学校による検診、調査票による検診、心臓検診が1次検診として行われます。先天性心臓病の多くは乳児期に診断されますが、一部は心臓検診で発見されます。

また、腸や体の発育をそのままにしておく、食物アレルギーが多くなる事も分かってきました。乾燥剤には保湿剤を使いましょう。赤い湿疹ならはのりや保湿剤で治療し、皮膚をきれいにすることで食物アレルギーを予防しましょう。

エコチル 2017年秋号

お知らせ

すべてのふれあい会のお申し込みが、ホームページからできるようになりました。受付期間中は、いつでもお申し込みができますので、ぜひ、お気軽にお申し込みください。

エコチルふれあい会

【開催地】 in 郡山市 2017年9月21日(木) AM 10:00-11:30 参加費 無料 16歳以下 16名

【開催地】 in 伊達市 2017年8月21日(木) AM 10:00-11:30 参加費 無料 16歳以下 16名

【開催地】 in 会津若松市 2017年9月21日(木) AM 10:00-11:30 参加費 無料 16歳以下 16名

【開催地】 in 福島市 2017年8月21日(木) AM 10:00-11:30 参加費 無料 16歳以下 16名

子育て講演会&ファミリーコンサート

【開催地】 in 郡山市 2017年9月27日(日) AM 10:00-11:30 参加費 無料 16歳以下 16名

4-6歳親子リトミック

【開催地】 in 会津若松市 2017年9月27日(日) AM 10:00-11:30 参加費 無料 16歳以下 16名

平成29年度 イベントスケジュール (2017年10月～12月開催分)

☆ふれあい会
9月25日(日) 福島市 A・O・Z(ア・オー・ズ)
9月26日(月) 福島市 ミュルカがくく(ミルカガクク)
10月31日(日) 福島市 A・O・Z(ア・オー・ズ) 子育てワークショップ
11月7日(日) 会津若松市 会津若松市 A・O・Z(ア・オー・ズ)
12月15日(日) 福島市 会津若松市 A・O・Z(ア・オー・ズ)

【エコチルふくしま通信】に掲載している写真のほかに、ホームページでイベントの様子をたくさん紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

ニューズレター：2018年春号(平成30年3月発行)

エコチルふれあい会

2018年2月28日発行のこのニューズレターにはお知らせが盛り込まれています。

こちらには参加者様からのご投稿写真を掲載しております。
個人情報保護の観点から、このコーナーのホームページへのアップロードは控えさせていただきます。

エコチルふれあい会では小児科医の話や助産師・保健師からのアドバイスを受けられます

～関心が高かった内容を皆さまにご紹介します～

1 小児科医のお話(ビタミンDはどこから)

ビタミンDは骨の成長に欠かせないビタミンです。不足すると小児ではくる病の原因となります。ビタミンDは、食品からの摂取と体内での合成の2つの方法で得られます。特に日光浴によって体内で合成されるビタミンDは、日光の強さや肌の露出の面積によって異なります。日本には日光の強さや肌の露出の面積が不足しがちであり、日本には日光浴の習慣も、冬場は日光が弱く、体内で合成されるビタミンDは長期間の日光の照射が必要になります。エコチル調査の詳細調査でも夏より冬に検査された幼児の血中ビタミンD濃度は低値でした。従って、冬場は十分な量のビタミンDを摂取する必要があります。ビタミンDは魚肝油やサプリメントから摂取することもできます。アレルギーがある場合は医師や薬剤師とご相談ください。

2 助産師、保健師からのアドバイス

Q1 離乳食を食べない、少ししか食べない
A1 原因は色々ありますが、何かにアレルギーがある可能性があります。アレルギーの症状はさまざまですが、くずりだし、次の行動に移すまでには遅れるようにするといえます。また、毎日の食事の量や食生活の改善に努めます。おやつも含めて1日食事量や質を振り返り、なぜ離乳食を食べないのか、おやつと一緒に振り返るのも良いと思います。

Q2 なぜ、離乳食が大切なの?
A2 子どもにとって離乳食は2食の中でも一番大切な食事です。なぜなら、朝食を抜くと腸はエネルギー不足となり、集中力に欠けたりやる気も落ちたりします。小児科に入るとおやつ時間もなく、空腹のままでは授業の集中も保てられにくくなります。

～みなさまへ～

ご登録されている内容が変更になりましたら、住所や電話番号等が変更になりましたら、大変お手数を掛けますが、以下の登録内容変更用紙に、年にご送付される質問票に同封させていただきます。

お手元に用紙がない場合は、ご連絡ください。

★掲載のお写真に同意する写真を掲載いたします。
お写真の撮影(撮影)者(氏名)性別(記事のお名を記載)電話番号(メール)(25文字程度)を添えて下記URLにメールでお送りください。
ecochile@fukushima.jp

★みなさまの「声」をお聞かせください。
エコチル調査に関する疑問・感想・本誌の改善やご要望などについてお聞かせください。
お問い合わせに関する情報は、HPに掲載しているプライバシーポリシーに基づいて取り扱いします。
http://www.ecochile-fukushima.jp/inquiry.php

調査の一般的な内容に関するお問い合わせ先
▶エコチル調査福島県専用コールセンター
TEL.0120-327-735
受付時間：平日9時～17時

エコチル調査福島県ユニットセンターへのお問い合わせ先
●福島県事務所(郡山・福島・会津・いわき地域)
TEL.024-547-1449
〒960-8525 福島県郡山市南大塚1-1-1
●山形事務所(郡山・福南・会津・いわき地域)
TEL.024-983-4780
〒980-0822 山形県山形市南大塚1-1-1
http://www.ecochile-fukushima.jp

エコチルふくしま通信

2018年春号

発行/エコチル調査福島県ユニットセンター

皆様のご協力が新たな「事実」の確立とともに将来の子どもたちへのプレゼントに...

エコチル調査福島県ユニットセンター 副センター長 産科婦人科学講座 教授 藤森 敬也

東日本大震災の直前の平成23年1月に開始されたエコチル調査は、今年1月から8年目となりました。エコチル調査は、全国で目標の10万人の参加を達成し、福島県では13,131人の妊婦さんに協力いただきました。現在は、お子さんたちのフォローアップ調査を中心に、さらに、全国で5,000人のお子さんたち、福島県では約650人のお子さんたちに協力をお願いした詳細調査も、4歳児を対象に順次実施しています。詳細調査は、自宅訪問での環境調査、医療機関等での医学的検査、精神神経発達検査などを行っています。ご家族の皆様、医療機関の皆様にお世話になっております。

こうした中、少しずつ調査結果も報告されてきています。

エコチル調査7周年 シンポジウムのご報告

平成30年2月10日(土)、会場の日本科学未来館のホールには、小さなお子様連れで調査参加の方や全国15ユニットセンターの関係者も多く参加しました。エコチル調査ユニットセンター長の山本弘先生による「エコチル調査のこれまでとこれからの基盤調査に続き、産婦人科医、漫画「コウノドリ」のモデル医師でもある福田和秀先生からは、「妊娠・出産ノマの話」を医療現場での実際のエピソードをお話しながら、とても分かりやすく話していただきました。

「妊娠・出産をみんなで支えよう」をテーマとした「パネルディスカッション」では、一児の母で看護師としてNICU(新生児集中治療室)で勤務経験もある藤原英里さん、そして当ユニットセンターの半澤ハル子助産師がパネリストとして参加し、それぞれの立場から妊娠期間や出産後のメンタルの必要性や、家族や周囲のサポートの大切さなどについての意見が交わされました。エコチル調査では、子育てに関する悩み・質問・相談などを受け、ご希望があれば適切な専門機関を紹介しています。エコチル調査コールセンター(0120-327-735)に気軽にお問合せ下さい。

エコチル調査 わかったこと

※この結果は2018年2月13日時点の福島ユニットセンターのデータに基づく暫定的な結果です。

今回は お子さんの歯について福島県の集計をご紹介します。～4歳児問票より～

●「むし歯(う歯)」と歯科医師に診断されたことはありますか

はい	31.0%
いいえ	69.0%

回答数: 5,680件 (前年度: 32件)

●仕上げみがきをしますか

しない	0.6%
たまにする	18.6%
いつもする	80.8%

回答数: 5,680件 (前年度: 78件)

ワンポイントアドバイス

1. 歯磨きの回数や方法
2. 重点的に磨く場所

歯をきれいに磨くことも大切ですが、むし歯の原因は歯垢(プラーク)です。歯垢は歯と歯の間、歯と歯茎の間、歯と舌の間などに残りやすいため、歯垢を落とすことが大切です。歯垢を落とすには、歯磨きだけでなく、歯間ブラシやフロス(糸ようじ)も効果的です。歯垢を落とすことで、歯垢が歯茎に溜まるのを防ぎ、歯茎の腫れや出血を防ぐことができます。

おしえて先生! あんなこと、こんなこと

こどものけいれんについて

福島県総合療育センター 副所長 森田 浩之 先生

子どもがけいれん(けいれん)を起こした時は、まずは冷静にさせ、呼吸を止めさせたり、強く揺らしたり余計な刺激を与えず、落ち着いたら様子を見ましょう。舌が噛みつかないように口の中に入れておくと、舌が噛みつかないようにつながります。子どものけいれんは、発熱や、間接的な原因となることが多くあります。子どもがけいれんを起こす原因は様々です。熱を強く打ったり、発熱や、間接的な原因となることが多くあります。舌が噛みつかないように口の中に入れておくと、舌が噛みつかないようにつながります。

急性白血病について

福島県立医科大学小児病棟 小児腫瘍内科 准教授 佐野 秀樹 先生

検査で白血球が多いといわれました。急性白血病かどうか心配です。

急性白血病は骨髄(骨髄)でがん化した未熟な血液細胞が血液中に出てくるため、白血球が増えます。同時に、白血球細胞は血液が作られる場所(骨髄)で増えるため、正常の白血球は減少します。そのため、貧血(顔色が青い、たない)、出血傾向(血が止まりにくい)、発熱(熱)などが起こります。白血球は感染やストレスなどで増加しますので、形態異常のない正常な白血球が増えただけで他の所見がない場合に急性白血病を疑うことは通常ありません。

エコチルふれあい会

すべてのふれあい会のお申し込みが、ホームページからできるようになりました。受付期間中は、いつでもお申し込みができますので、ぜひ、お気軽にご利用ください。

☆お知らせ☆

in 須賀川市
2018年2月24日(土) 10:00～12:00

in 白河市
2018年2月24日(土) 10:00～12:00

in 福島市
2018年2月24日(土) 10:00～12:00

☆イベントスケジュール☆ (2018年4月～8月開催分)

- 4～6歳児対象(ひも遊び) 5月20日(土) 福島県 福島市 福島市立中央小学校
- 4～6歳児対象(キッズダンス) 8月 7日(日) 福島県 A-O-2(アオク) 伊達市 伊達市立中央小学校
- 保護者の方対象(母親ズトッチ) 5月 16日(日) 福島県 A-O-2(アオク) 伊達市 伊達市立中央小学校
- 保護者の方対象(笑いヨガ) 6月29日(日) 福島県 山形県 山形県立中央病院 山形県立中央病院
- 全県小学生対象(ワークショップ) 7月7日(日) 伊達市 山形県 山形県立中央病院
- 5月 16日(土) 山形県 山形県立中央病院 山形県立中央病院
- 5月12日(土) 山形県 山形県立中央病院 山形県立中央病院

☆エコチルふれあい会☆

親子で笑いながらできる楽しいヨガ体験

平成29年度 保護者対象ふれあい会での「笑いヨガ」です!!

笑いヨガの様子

笑いヨガは誰でもできる心身の笑いヨガ体験です。一緒に笑ってませんか?保護者同士で交流もできます。

笑いヨガは誰でもできる心身の笑いヨガ体験です。一緒に笑ってませんか?保護者同士で交流もできます。

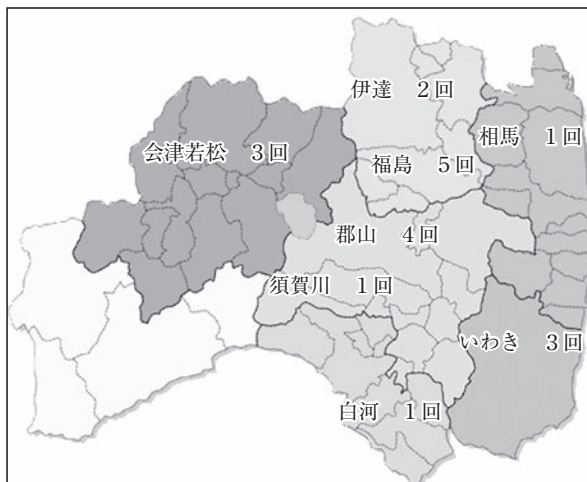
笑いヨガは誰でもできる心身の笑いヨガ体験です。一緒に笑ってませんか?保護者同士で交流もできます。

4 エコチルふれあい会の実施状況

ふれあい会は、福島のお子さんの成長をともに見守るための企画として平成25年度から開始した。ふれあい会は、スタッフにとって親子のふれあい・遊びの場や育児相談などを通じて、福島ユニットセンターのモットーである参加者さんとの「顔が見える」コミュニケーションを具体化できる貴重な機会として実施している。

(1)開催状況

平成29年度は県内6地域で計20回開催した。



開催地域	開催市町村	開催日	内容
県北	福島市	平成29年5月24日(水)	親子ダンス(キッズダンス)
		8月8日(火)	親子リトミック
		10月25日(水)	親子ダンス(キッズダンス)
		10月31日(火)	子育てに関する参加型ワークショップ
		平成30年2月27日(火)	笑いヨガ
	伊達市	平成29年8月2日(水)	親子リトミック
		平成30年3月6日(火)	笑いヨガ
県中	郡山市	平成29年6月6日(火)	親子ダンス(3B体操)
		9月5日(火)	親子ダンス(3B体操)
		12月5日(火)	笑いヨガ
		平成30年3月10日(土)	親子リトミック
	須賀川市	平成29年10月3日(火)	笑いヨガ
県南	白河市	平成30年2月20日(火)	笑いヨガ
会津	会津若松市	平成29年5月9日(火)	親子ダンス(3B体操)
		7月29日(土)	親子リトミック
		11月7日(火)	笑いヨガ
相双	南相馬市	平成29年9月27日(水)	育児相談会
いわき	いわき市	平成29年7月4日(火)	親子ダンス(3B体操)
		平成29年9月30日(土)	親子リトミック
		平成30年3月13日(火)	子育てに関する参加型ワークショップ

(2)各対象者のふれあい会の様子

3歳児親子ふれあい会

キッズダンス・3B体操などを親子で一緒に楽しみました。



親子ダンス(キッズダンス)
平成29年5月24日 あづま総合体育館(福島市)



親子ダンス(3B体操)
平成29年6月6日ミュージカルがくと館(郡山市)

4-6歳児親子ふれあい会

親子でおもいっきり体を動かしました。



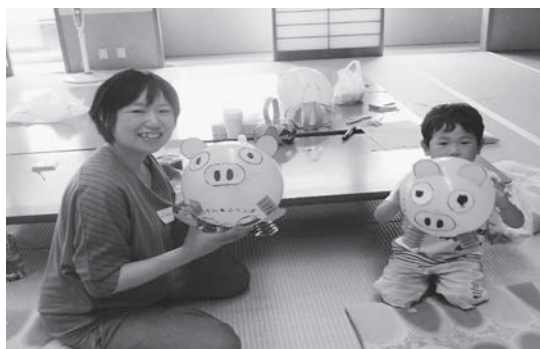
親子リトミック 平成29年7月29日
会津稽古堂(会津若松市)



親子リトミック 平成29年8月2日
伊達市ふるさと会館(伊達市)

子育て相談会

楽しいおもちゃを作りました。



子育て相談会 平成29年9月27日
はまなす館(相馬市)

保護者ふれあい会

笑いヨガや子育てに関する参加型ワークショップで
楽しく有意義な時間を持つことができました。



ワークショップ 平成30年3月13日
いわき市総合健康福祉センター(いわき市)



笑いヨガ 平成29年12月5日
中央公民館(須賀川市)

(3)ふれあい会アンケート結果

アンケートは、参加者とのコミュニケーション活動に関する今後の計画、改善等に役立てるため、平成29年度ふれあい会の実施時に、参加者を対象に行った。

1)ふれあい会参加について

① ふれあい会に参加しての満足度

ふれあい会に参加された244名を対象に、「本日のふれあい会に参加されていかがでしたか」と尋ねたところ、「満足」と答えた方は、232名であり、95%以上の方に満足していただいた。

② 自由記載に寄せられた感想、意見等

○3歳児対象ふれあい会

- ・たっぷり体を動かすことができ、楽しんで参加できた。
- ・仕事をしていると一緒に過ごす時間が限られてしまうので、体をめいっぱい動かして楽しかった。
- ・普段こんなに体を動かすことがないので、とても楽しく子どもと遊べてよかった。
- ・下の子を安心してみてもらうことができ、久々に上の子と楽しく2人の時間を過ごすことができました。
- ・前回と比べ、子どもの成長が感じられ、とてもよかった。子どももとても生き生きして楽しそうだった。他の子どもさんの様子を知ることができてよかった。
- ・小児科の先生や助産師さんからいろんな話を聞くことができ大変よかった。大変ためになった。

○4-6歳児対象ふれあい会

- ・リトミックはほかのお友達と関わったり、一緒に体を動かしたりと良い機会をいただいた。
- ・リトミックでは子どもが楽しそうにしている姿を見れてよかった。

- ・久しぶりに参加した。子どもも同年代の子と一緒に遊ぶことができ楽しかった。
- ・子どもだけでなく大人もリフレッシュできて楽しい時間でした。子どもが最後に「楽しいね」と言っていた。

○保護者対象ふれあい会

(笑いヨガ・おしゃべりタイム)

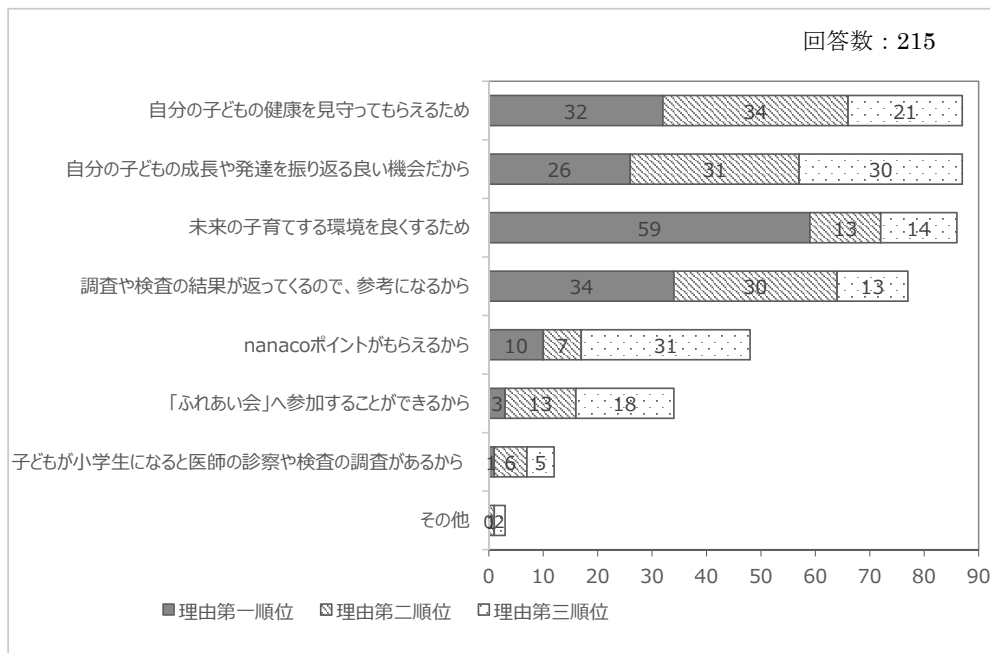
- ・おしゃべりタイムがよかった。悩みを共有できてよかった。
- ・ストレス解消になった。たくさん笑って楽しかった。
- ・初めて笑いヨガを体験したが、たくさん笑うことができてすっきりした。
- ・笑いヨガで、体と心がポカポカして楽しかった。
- ・笑うことがなかったので、笑顔で笑うように心がけたい。

(子育てに関する参加型ワークショップ)

- ・お母さんとの交流会でカードを使って日頃の思いを伝えあえて楽しい時間だった。
- ・参加されたお母さん方と情報交換、共感することができてよかった。
- ・なかなか普段まじめに子どもの遊びについて語り合う機会がなく、専門の先生に、分析的・理論的にカウンセリングしていただき貴重だった。父親が参加していればもっと有意義だった。
- ・みんな同じような悩みを持っているんだなと思った。参加してよかった。

2) エコチル調査への参加理由について

ふれあい会に参加された244名を対象に参加理由を尋ねた。215名の方から理由に順位をつけて三つまで回答していただいた結果、次のグラフのとおりであった。(回答率：88%)



理由第一順位として選んだものは、「未来の子育てする環境を良くするため」が一番多く、次いで「調査や検査の結果が返ってくるので、参考になるから」、「自分の子どもの健康を見守ってもらえるため」であった。

5 エコチル調査協力医療機関・施設一覧(平成30年3月31日現在)

1)産科協力機関(リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当		
1	県北	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所		
2		明治病院	福島市			
3		いちかわクリニック	福島市			
4		ささや産婦人科	福島市			
5		新妻産婦人科	福島市			
6		本田クリニック産科婦人科	福島市			
7		済生会福島総合病院	福島市			
8		大原総合病院	福島市			
9		福島県立医科大学附属病院	福島市			
10		大川レディースクリニック	福島市			
11		菅野産婦人科医院	福島市			
12		セントクリニック	伊達市			
13		二本松ウイメンズクリニック	二本松市			
14		社会保険福島 二本松病院(旧名称)	二本松市		平成25年3月31日終了	
15		渡辺医院	二本松市			
16		谷病院	本宮市			
17	県中	たなかレディースクリニック	郡山市	郡山 事務所		
18		岡崎産婦人科	郡山市			
19		寿泉堂総合病院	郡山市			
20		塚原産婦人科内科外科医院	郡山市			
21		トータルヘルスクリニック	郡山市			
22		太田西ノ内病院	郡山市			
23		星総合病院	郡山市			
24		総合南東北病院	郡山市			
25		古川産婦人科医院	郡山市			
26		国立病院機構 福島病院	須賀川市			
27		小森山産婦人科医院	須賀川市			
28	県南	片倉医院産科婦人科	白河市	福島本部 事務所		
29		白河厚生総合病院	白河市			
30		塙厚生病院	東白川郡			
31		岩佐医院	茨城県久慈郡		福島県民のみリクルート	
32	会津	舟田クリニック産科婦人科	会津若松市	福島本部 事務所		
33		竹田総合病院	会津若松市			
34		会津中央病院	会津若松市			
35		坂下厚生病院	河沼郡			
36	相双	あらかし産婦人科クリニック	相馬市	福島本部 事務所	エコチル調査リクルート中断	
37		南相馬市立総合病院	南相馬市			
38		レディースクリニックはらまち	南相馬市			
39		西潤マタニティクリニック	南相馬市			
40		原町中央産婦人科	南相馬市			
41		大町病院	南相馬市			
42		双葉厚生病院	福島市飯坂			
43		今村クリニック	双葉郡浪江町			
44	公立相馬総合病院	相馬市				
45	いわき	村岡産婦人科医院	いわき市	郡山 事務所		
46		渡辺産科婦人科	いわき市			
47		かたよせクリニック産科・婦人科	いわき市			
48		NOBUマタニティクリニック	いわき市			
49		いわき市立総合磐城共立病院	いわき市			
50		森田泌尿器科産婦人科医院	いわき市			
51		つくだ町産婦人科医院	いわき市			
52		月川レディースクリニック	いわき市			
53		佐藤マタニティー・クリニック	いわき市			

2) 詳細調査協力医療機関および協力施設

	エリア	協力医療機関・協力施設名	所在地	担当	医学的検査	発達検査
1	県北	公立藤田総合病院	国見町	福島本部 事務所	○	検査会場借用
2		大原総合病院	福島市		○	
3		福島県立医科大学附属病院	福島市		○	○
4	相双	公立相馬総合病院	相馬市		○	検査会場借用
5	県中	星総合病院	郡山市	郡山 事務所	○	○
6		太田西ノ内病院	郡山市		○	○
7	県南	白河厚生病院	白河市		○	検査会場借用※
8	会津	竹田総合病院	会津若松市		○	○
9		福島県立南会津病院	南会津町		○	検査会場借用
10	いわき	いわき市立総合磐城共立病院	いわき市		○	
11		子どもの家	いわき市			○

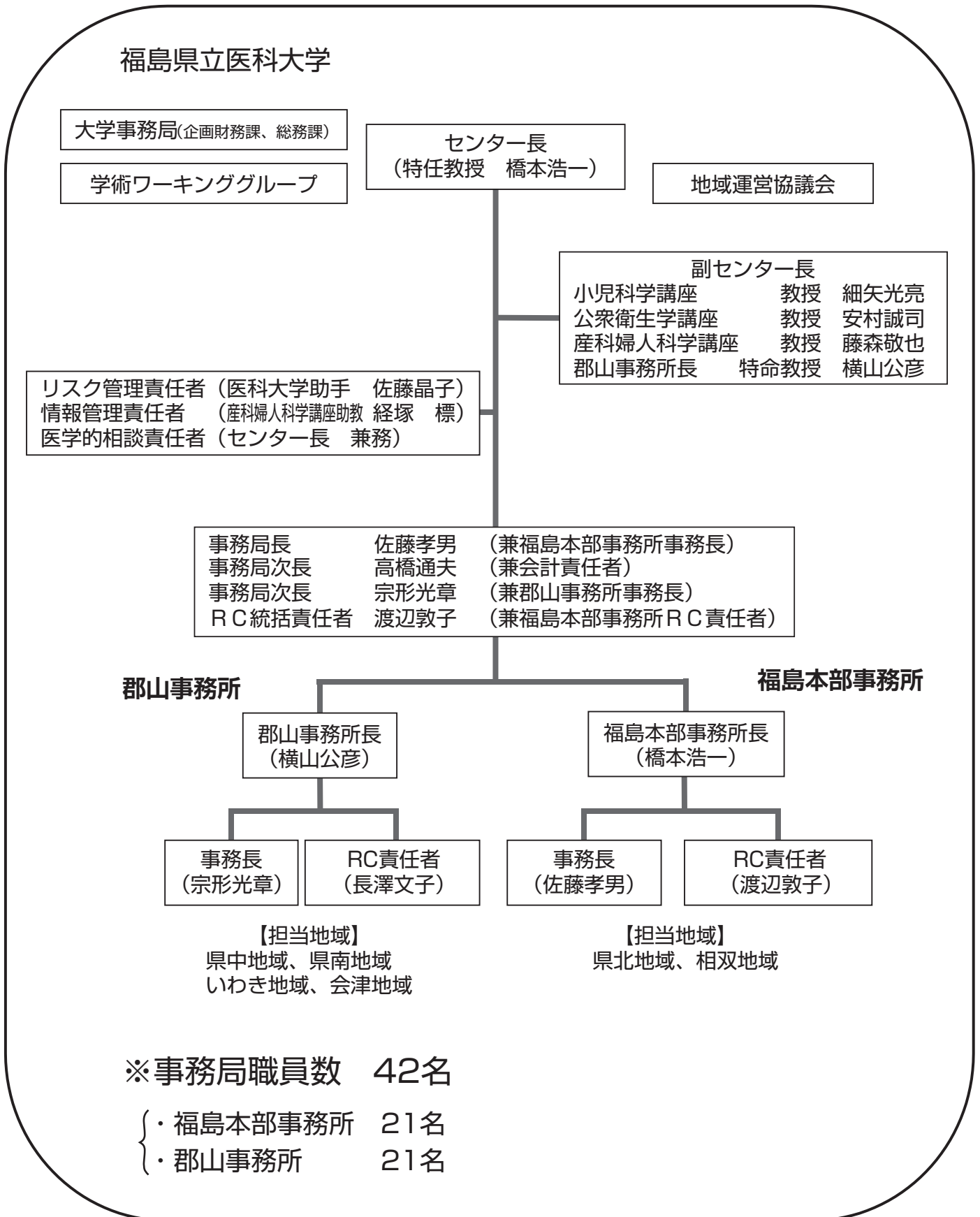
※白河厚生総合病院においては5月末まで白河厚生総合病院所属の心理士が検査を担当した。

3) 平成29年度 疾患情報登録協力医療機関

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1	県北	大原総合病院	福島市	福島本部 事務所
2		福島県立医科大学附属病院	福島市	
3		福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院	福島市	
4		福島赤十字病院	福島市	
5		公立藤田総合病院	国見町	
6	相双	公立相馬総合病院	相馬市	
7	県中	寿泉堂総合病院	郡山市	郡山 事務所
8		太田西ノ内病院	郡山市	
9		星総合病院	郡山市	
10		太田熱海病院	郡山市	
11		総合南東北病院	郡山市	
12		福島県総合療育センター	郡山市	
13		公立岩瀬病院	須賀川市	
14		国立病院機構 福島病院	須賀川市	
15	県南	白河厚生総合病院	白河市	
16	会津	竹田総合病院	会津若松市	
17		福島県立南会津病院	南会津町	
18	いわき	いわき市立総合磐城共立病院	いわき市	

6 平成29年度福島ユニットセンター組織図

(平成30年3月31日現在)



————— 編集・発行 —————

福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

*お問合せ窓口 TEL 024-547-1449

エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒963-8024 福島県郡山市朝日3丁目6番4号

レジデンス朝日第2ビル2階

TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

*お問合せ窓口 TEL 024-983-4780



エコチル★ふくしま

Eco&Child Fukushima